

Journal of IPCs

vol.
44



> 巻頭言

教育用情報システムの変遷について / 吉田和幸

**医学情報センターの課題について
～ BCPとIT-BCP ～** / 下村剛

> 特集①

2023年度システム更新

> 特集②

情報システムの利活用事例

> センター利用案内

NII FileSenderについて
～ Proselfに代わる大容量ファイル転送サービス～
ウィルス対策ソフトウェア変更のご案内
よくある質問回答集

情報基盤センター
〒870-1192 大分市大字巨野原700番地
<https://www.cc.oita-u.ac.jp/>

医学情報センター
〒870-5593 由布市挾間町医大ケ丘1-1
<https://www.med.oita-u.ac.jp/mic/>



OITA UNIVERSITY

発行 2024年3月 情報基盤専門委員会広報部会

教育用情報システムの変遷について

学術情報拠点副拠点長（情報基盤センター担当） 吉田 和幸

1989年に計算機センター次長になって以来、大部分の期間、計算機センター、情報処理センター、総合情報処理センター、学術情報拠点（情報基盤センター）にかかわってきた。情報処理センター以降の借り上げ予算が認められ、定期的に最新の計算機システムを導入、運用できるようになった。ここでは、これまでセンターで導入・運用してきたシステムを当時の技術を表すキーワードとともにたどる。

1984年着任当時、計算機センターでは、汎用機のFACOM230-38Sが稼働していた。リソースは、主記憶128kワード（256kByte）、DISK 70Mbyte×2であり、朝、プログラムを受け取り、夕方、あるいは翌日計算結果を返却するバッチ処理で運用していた。1986年に、最新の汎用機のFACOM M360Rに更新され、主記憶8MB、ディスク1.8Gbyteであり、TSS（Time Sharing System）により端末を接続してインタラクティブに計算機を使えるようになった。5台の端末を備えていたが、インターネットは、まだ存在していないため、センターの端末室での利用であった。

1990年に計算機センターは情報処理センターに改組され、レンタル予算が認められた。以降、定期的にシステム更新を行うことができ、常に最新の技術を取り入れたシステムとすることができるようになった。情報処理センターが最初に導入したシステムに当たって、「ダウンサイジング、学内LAN、インターネット、情報処理教育」というキーワードで表すことができるシステムである[1,2]。従来は、計算機を1台導入して、そのうえですべての処理を行っていたが、それぞれの処理に見合うサイズのサーバでシステムを構成するダウンサイジング、それらを相互に接続する学内LAN、他機関とデータ交換するためのインターネット、教育用の計算機システムである。具体的に、従来の計算環境を引き継ぐ汎用機（FACOM-M770）には、仮想計算機機構を導入して、汎用OSとUNIX系OSを稼働させた。ワークステーション（Sun4/490）では、メールサーバ、DNSサーバ、ファイルサーバ等を受け持つ。教育用システムは、60人程度の同時利用が必要であり、汎用機のTSS処理では十分な応答時間が確保できない。どの端末を使っても自分のデータを利用できるようにするため、処理は分散、データ管理は集中させる必要があり、ファイルサーバと端末（PC）という構成になった。なお、この時、外部との接続は、汎用機関のネットワークであるN1ネットワークに9600bpsで、UNIX間のネットワークであるインターネット（TCP/IP網）に64kbpsで、九大大型計算機センターと接続していた。

その後のシステム更新では、安定運用を目指して、冗長DISK構成（RAID）によるファイルサーバの導入を行い、演算サーバとしてミニスーパーコンピュータの導入等も行った[3]。学内基幹LANは、FDDI、ATM、Gigabit Ethernetと順次、高速化されていった。

21世紀になり、インターネットが普及してくると、インターネットを使った不正行為がみられるようになり、安全に安心してインターネットが利用できるようファイアウォールの導入、電子メールのspam対策システムの開発[4,5]を行った。

仮想化技術（汎用機の仮想化機構と原理的には同じもの）の普及により、種々の処理をするサーバを大きなリソース（CPU、メモリ）を持つハードウェア上でまとめて稼働させるようになった。大きな1台の汎用機から、多数のサーバを組み合わせてシステム化するダウンサイジングから、大きなリソースを持つハードウェアへ、回帰したようでもある。

これからも、センターは、最新の技術を取り入れ、快適で安全安心なインターネット利用環境を追求していくと思う。

宇津宮教授、浜武教授をはじめとする計算機センターから総合情報処理センターの歴代のセンター長には、システムの設計・運用等、大変お世話になった、学術情報拠点発足後、CIO、CISOとしてセンターの運用を見守っていただいている中島拠点長をはじめとする歴代の学術情報拠点長に大変お世話になっている。ここに記して謝意を表します。

参考文献

- [1] 情報処理センター:「大分大学情報処理センター新システムの概要」, 広報, Vol.13, No.1, pp.68-85(1991).
- [2] 吉田:「大分大学の計算機ネットワークについて」, 広報, Vol.13, No.1, pp.86-91(1991)
- [3] 藤田:「情報処理センター新システム紹介」, 広報, Vol.17, No.1, pp.10-30(1995).
- [4] 吉田, 矢田, 原山, 伊藤:「spam メール対策と統合メール管理システムについて」, 情報処理学会論文誌, Vol.46, No.4, pp.1035-1040(2005).
- [5] 松井, 金高, 加来, 池部, 吉田:「milter の組合せによる低配送遅延を目指した spam 対策メールサーバの設計と導入の効果について」, 情報処理学会論文誌, Vol.55, No.12, pp.2498-2510(2014).

医学情報センターの課題について

～ BCP と IT-BCP ～

学術情報拠点副拠点長（医学情報センター担当） 下村 剛

令和元年5月より、私は医学情報センター長と医療情報部長を兼務しており、大分大学挾間キャンパスでの学術系のネットワークである学内LANと電子カルテを中心とした病院情報管理システムの管理・運営の責任者として活動しています。医学情報センターと医療情報部の業務は切り離して行うことが困難であり、挾間キャンパスにおけるICT部門としての業務は、医学情報センターと医療情報部が配置されている医療情報部棟が中枢となっています。また、私のもう一つの役割は危機管理であり、病院長補佐（ICT・危機管理担当）、大分大学減災・復興デザイン教育研究センター（CERD）次長、医学部附属病院災害対策室（以下、災害対策室）室長補佐を兼務しています。全国で多発する多様かつ複合的な災害への備えが求められるなか、大分大学ではクライシスマネジメント機構を設置して、CERD、グローバル感染症研究センターおよび災害対策室が組織の枠を超えて活動しており、災害・医療情報を適切に管理・共有するシステムの開発や事業継続計画（BCP）等を推進しています。

災害医療における事業継続計画（BCP）の導入は、東日本大震災を受けて、平成25年9月に「BCPの考え方に基づいて病院災害対応計画作成の手引き」が厚生労働省より各都道府県に情報提供されたことにより進み始めました。その後、熊本地震を受けて、平成29年3月に災害拠点病院におけるBCP策定が義務づけられました。平成30年12月に大分大学挾間キャンパス事業継続計画（以下、挾間キャンパスBCP）を策定し、その後も事業継続マネジメント（BCM）を続け、BCPの見直・改訂を行っています。

そもそも、BCPはあらゆるハザードに対応することが基本となるために、医療情報や情報インフラにおけるBCPすなわちIT-BCPも、BCPの一部とされていますが、サイバーセキュリティ対策などの特殊性があることから、実際にはBCPに組み込まれていることは少ないとされています。

現在の挾間キャンパスBCPに記載されているIT-BCPにかかる項目は、「災害時に電子カルテシステムが停止した場合の対応について、医療情報部への連絡方法、患者情報を参照できる3つのシステム、紙運用について」のみと不十分な状況です。大規模災害時におけるICT部門の最大の使命は、電子カルテシステムを停止させずに、附属病院の機能を維持し続けることである。このため、ここ5年ほどかけて、バックアップサーバの免震棟への移設、サーバールームへのガス系消火設備の設置、自家発電においても長時間にわたり電子カルテ機能を維持するための準備などを行ってきました。

昨今の大阪急性期・総合医療センターやつるぎ町立半田病院のランサムウェア被害報告を鑑みて、サイバーセキュリティへの関心が大きくなり、IT-BCPの重要性が高まっています。IT-BCPを含むBCP推進には大きな予算の確保だけではなく、CSIRTなどの実効的な組織体制作りが重要であり、挾間キャンパスのICT部門として災害対策やBCPを進めているところです。情報インフラは、極めて重要なライフラインであり、その確保は災害対応の成否に大きく係わります。情報インフラを途絶させないように、大分大学全体でIT-BCPを推進して行く必要があると考えています。

2023 年度に更新した情報システム

学術情報拠点情報基盤センター 吉崎 弘一

1. はじめに

学術情報拠点では、2023 年度に複数の情報システムを更新しました（表 1）。これらのシステム更新では、利便性と情報セキュリティの向上に加え、経費と管理コストの削減を目指しています。Gmail の導入や無線 LAN の拡充以外にも、様々な情報システムを更新しています。本稿ではこれら新システムの内、事務システムと図書館情報システム以外について紹介します。これらの情報システムの更新は、情報基盤センター、医学情報センター、情報化推進室の教職員が中心となり取り組み、多くの教職員にご協力頂いています。

表 1 2023 年度に更新した情報システム

システム名	契約期間	主な構成
クラウドメール	2023 年 9 月末に移行完了	クラウドメール (Gmail) への移行
基盤情報システム	2023 年 10 月～2029 年 9 月 (6 年間)	仮想サーバと各種ゲスト環境 (認証サーバや DNS サーバ等) Firewall ウイルス検知ソフトウェア
基盤情報ネットワーク	2023 年 10 月～2030 年 9 月 (7 年間)	学内有線 LAN
基盤無線ネットワーク	2023 年 10 月～2030 年 9 月 (7 年間)	学内無線 LAN
事務システム	2023 年 10 月～2029 年 9 月 (6 年間)	業務用グループウェア (WEBWALKER'S)
教育情報システム (予定)	2024 年 3 月～2029 年 2 月 (5 年間)	教育用 PC とプリンタ 図書館情報システム
学習支援システム	2024 年 3 月～ (予定) (本学独自の運用)	Moodle

※ 英語学習用 e ラーニングシステム (ALC NetAcademy) と情報倫理自習コンテンツ (INFOSS 情報倫理) については、別途、2023 年 3 月に更新をしています。

2. クラウドメール

本学のメール環境を、2023 年 8 月に DEEPMail から Gmail に移行しました。クラウドサービスである Gmail に移行することで、メールの耐障害性とセキュリティを向上させ、ライセンスとサーバ・ストレージの費用を削減しています。セキュリティの向上では、多要素認証への対応 (予定) に加え、

不正メール対策として SPF (Sender Policy Framework)、DMARC (Domain-based Message Authentication Reporting and Conformance)、DKIM (Domain Keys Identified Mail)に対応しました（従来のメール環境でも SPF と DMARC には対応済み）。また、スマートフォンの Gmail アプリを用いる事で、これまで以上に容易にメール環境にアクセスできます。

一方、日々利用するメール環境の移行は、利用者にとって大きな負担です。この負担を軽減するため、メール環境の移行時には、メールボックス内のデータを Gmail に一括移行[1]し、アドレス帳についてはデータ移行ツールを学内に提供しました。

なお、2023年夏には、個人で利用するメール環境の Gmail 移行に加え、メールに関する以下の作業も行っています。詳細については、情報基盤センターWeb ページの情報をご参照ください[2]。

- 共用 ID でのメール利用の終了と、同じメールアドレスでのメーリングリスト移行
- メーリングリストの Google グループへの移行
- 部局等で運用していたサブドメインメールの終了
- ファイル共有システム (Proself) の運用終了

3. 基盤情報システム

基盤情報システムは、サーバ、Firewall、ウイルス検知ソフトウェアなどから構成し、情報サービスとセキュリティの基盤となるシステムです。管理コスト・経費の削減としては、仮想サーバの更新が挙げられます。2023年9月に更新した同システムでは、基盤情報系と教育情報系で分かれていた仮想サーバを1式に集約し、構成を3TierからコンパクトなHCI (Hyper-Converged Infrastructure)に変更しました。この仮想サーバを構成するハードウェアの削減は、経費だけではなく、ハードウェアに起因する障害や管理コストの削減に寄与すると期待しています。この仮想サーバの構成変更などから、情報基盤センターで管理するシステム主要機器を設置する19インチラックは、従来の5本から3本に削減しています(図1)。

仮想サーバのHCI構成として、分散ストレージを効率的に管理するためにNutanix AOIを、既存のゲスト環境から円滑に移行するためにVMware vSphereを導入しています。仮想サーバのハードウェアはDell EMC XC750を4台と、それらを接続するAlaxalA製サーバスイッチで構築しています。この仮想サーバ上で、DNSサーバやMoodleサーバを含む、100近くのゲスト環境を運用しています。

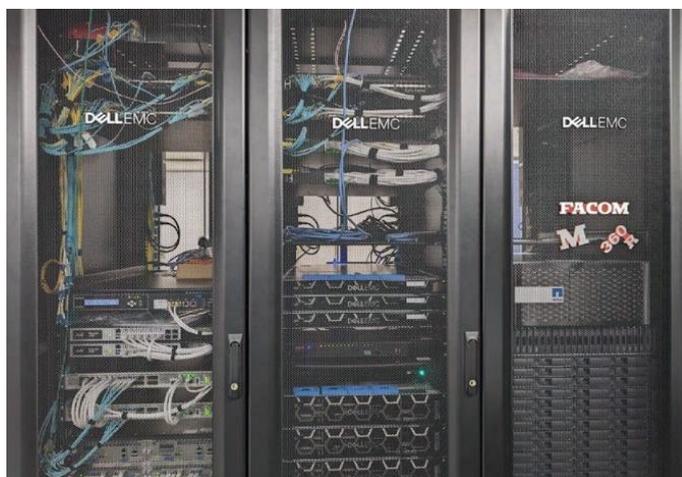


図1 基盤情報システムと基盤情報ネットワークの機器

Firewall は 2023 年 9 月に、Palo Alto 製 PA-3420 (2 台) に更新しました。更新前の PA-3250 と比較して、帯域幅と単位時間あたりのセッション数を約 3 倍に増強しています。また、更新前には Active-Standby だった冗長構成を、Active-Active 構成に変更しています。今回の Firewall 更新では、情報セキュリティ向上のため、学内と学外の通信時に加え、学内のサブネット間でも Firewall を通過させています。このような情報セキュリティの向上と今後のネットワーク需要の増加を踏まえ、Firewall のスペック/構成を大幅に増強しています。また、同 Firewall を用いた VPN を、2023 年度中に提供を開始する予定です。2023 年 12 月現在も提供している VPN は、2024 年 3 月までは利用できる予定です。

ウイルス対策ソフトとしては、2023 年 12 月から Trend Micro 製の Apex One を導入しました。これまで学内に提供していた Symantec Endpoint Protection から変更になるため、既に Symantec Endpoint Protection をインストールしている環境では、事前に同ソフトウェアのアンインストール作業が必要です。この操作については、情報基盤センターWeb ページでご案内します。

4. 基盤情報ネットワークと基盤無線ネットワーク

基盤情報ネットワークと基盤無線ネットワークでは、それぞれ有線 LAN と無線 LAN を 2023 年 9 月に更新しました。特に且野原キャンパスでは、10 年以上利用してきた本学保有のネットワーク機器が多数存在したため、それらを含めた大規模なネットワーク更新をしています。且野原キャンパスでは約 100 台のスイッチ (AlaxalA 製 / Panasonic 製) を、挾間キャンパスでは約 200 台のスイッチ

(AlaxalA 製 / Panasonic 製 / FXC 製) をそれぞれ導入しています。これらのスイッチにより、10Gbps に対応するエリアを拡大しました。

無線ネットワークとしては、且野原キャンパスで 161 台、挾間キャンパスで 139 台の無線 AP を導入しました。この新しい無線 AP (ACERA1310) は WiFi6 (802.11ax) の規格に対応することで、特にノート PC 等の無線 LAN 接続機器が、高密度で無線 AP に接続する教室等の環境でも、安定した接続が期待できます。また、無線 AP などに電源供給が可能な PoE スイッチを多数導入したことで、これまで無線 AP への電源共有に利用していた PoE インジェクターを原則撤去しました。これにより、無線 LAN の可用性を向上させています。なお、且野原キャンパスでは、継続利用する旧機種 of 無線 AP を含めると、原則、全ての教室と会議室で無線 LAN が利用できます。

5. 教育情報システム

教育用 PC とプリンタを主とする教育情報システムを、2024 年 2 月に更新します (予定)。本学では 2021 年度から学生の PC 必携化を開始していることを踏まえ、教育用 PC の設置台数を大幅に削減しています (且野原キャンパス 160 台 / 挾間キャンパス 146 台)。これら教育用 PC の OS は、Windows11 です。この教育用 PC で利用できるソフトウェアとしては、Microsoft Word、Excel、PowerPoint などを含め、既存環境のソフトウェアを、原則、継続利用可能にしています。ただし、一斉授業支援システム (WingNet) は、挾間キャンパスの情報処理実習室でのみ利用可能となり、SPSS については、新システムでは契約していない点が大きな変更点になります。

6. 学習支援システム

学習支援システム Moodle を、2024年2月に更新します（予定）。Moodle のバージョンを、現在の3.9 から 4.3 に移行する予定です。今後、更新の詳細を、情報基盤センターWeb ページ等でアナウンスしていきます。なお、これまでは学習支援システムを基盤情報システムに含めて調達してきましたが、今回の更新では同システムの構成から外し、Moodle サーバの保守管理を、情報基盤センターを中心とした学内で行うことになりました。

参考資料

[1] "GWMME について", <https://support.google.com/a/answer/6305431?hl=ja>

[2] "Web メール の更新", <https://www.cc.oita-u.ac.jp/guide/2023system/#webmail>

2023 年度のシステム更新について ～ 挟間キャンパス（医学部）～

学術情報拠点医学情報センター 安徳 恭彰

1. 概要

挟間キャンパスにおける 2023 年度システム更新の大きなポイントは、下記の通りです。

- 建屋間の 10Gbps 対応
- BYOD に対応するための教室 PC 削減、および無線 AP の増設
- サーバ集約化、IT-BCP への対応

2. 建屋間の 10Gbps 対応

AI 技術の向上、クラウドネットワークを利用したビッグデータ解析など、大量の通信を要求する事案が増えてきました。今後、ますます増大するであろうネットワークの通信量増加に備え、建屋間の 10Gbps 対応を進めています。これまで且野原キャンパスから挟間キャンパスのコアスイッチまでの通信帯域は 40Gbps ありましたが、

コアスイッチ配下はリンクアグリゲーションによる 2Gbps でした（図 1 上）。今回の更新では、将来の 10Gbps 化に備え、各建屋に配置されるノードスイッチ 12 台に向けて従来の 2Gbps から 10Gbps+バックアップ 1Gbps の構成に変更します（図 1 中）。将来的には必要に応じノードスイッチ配下を 10Gbps 対応に交換することで、柔軟に端末までの 10Gbps 化を行えるようにしたいと考えています（図 1 下）。

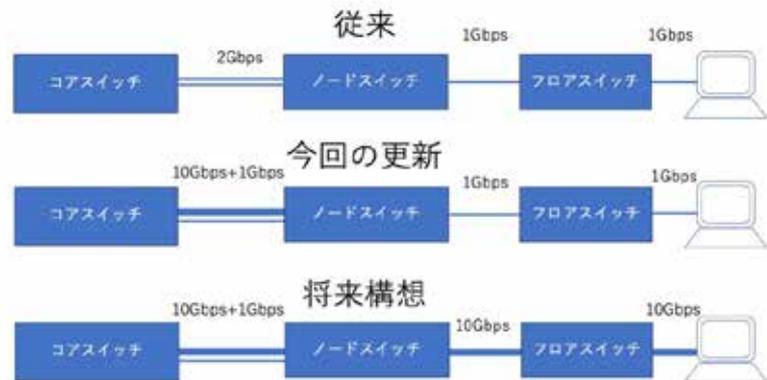


図 1 挟間キャンパスの 10Gbps 対応

3. BYOD に対応するための教室 PC 削減、および無線 AP の増設

2021 年入学生より BYOD（Bring Your Own Device）による PC 必携化が行われています。このため、2024 年 4 月には医学科 5、6 年生を除く学部学生は自分の PC を所有することになります。これにより PC 教室の役割も変わり、従来行われてきた授業形態も変更になるため、PC 教室の縮小を行いました（表 1）。

しかし、医学部では前述の医学科 5、6 年生は BYOD の対象学生ではありませんので、該当学年に向けた配慮を行っています。従来より学生への貸出 PC のサービスを行っていましたが、そちらは縮小範囲を最低限にとどめ、学生への影響が少ないよう配慮しました。

また、医学科では臨床研修にむけた CBT 試験が国家資格試験として扱われ、この CBT 試験は PC 教室（情報処理実習室）でしか行えません。CBT 受験者は年度によって変動しますので、必要時には臨床講義棟の PC を移動して、最大 133 名まで受験できる体制を構築しています。

さらに、PC 教室を縮小する反面、各教室で滞りなく BYOD 端末が利用できるように無線 AP の増強を行っています。これまで 100 人以上の教室でも無線 AP の設置は 1 台程度、小規模（収容人数 20 人程度）の教室の場合、2 教室で 1 台程度であった無線 AP を、100 人以上の教室では 5 台程度、小規模教室でも 1 教室に 1 台程度に増設しています。

表 1 BYOD 対応 PC 削減

	更新前	更新後
情報処理実習室	130	121
LL教室	70	0
自己学習室	10	0
チュートリアル教室	12	0
臨床講義棟	20	12
貸出PC（医学科用）	16	10
貸出PC（看護学科用）	16	0

4. サーバ集約化、IT-BCP への対応

挾間キャンパスは、且野原キャンパスから十数 km 離れており、SINET 側から見ると且野原キャンパスの下位に位置します（図 2 左）。このため、且野原キャンパスの停電などでキャンパスネットワークが停止した際は、挾間キャンパスは停電していても通信を行うことができなくなります。

このため、障害時に別途商用回線を準備していますが、その切り替えが煩雑であったため十分に活用できていませんでした。

また、サーバ集約化で DNS、DHCP など各種サーバも且野原キャンパスに集約化されるため、障害時に十分に機能できない状態が考えられます。

これらの問題を考慮し、IT-BCP の一環として障害発生時には臨時の DHCP サーバを立ち上げるなど、挾間キャンパスで独立してネットワーク接続できるよう準備しています（図 2 右）。

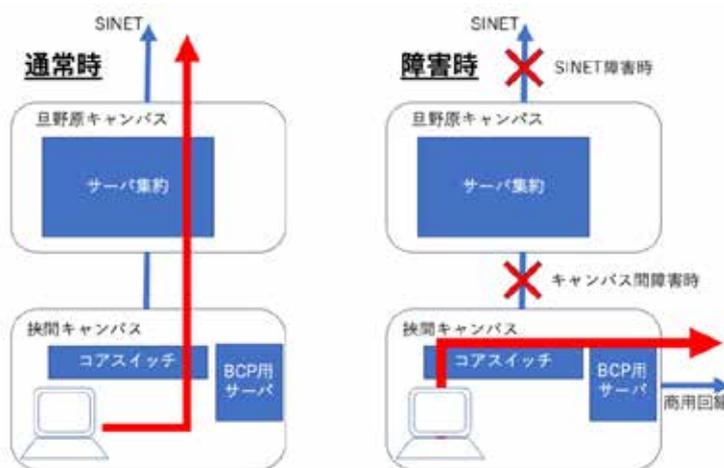


図 2 サーバ集約化と IT-BCP 対応

のめりこみプログラミング ～令和5年度女子中高生の理系選択支援プログラム事業～

理工学部理工学科知能システムプログラム 賀川 経夫

1. はじめに

大分大学理工学部では、令和5年度「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」において、実験や講演、会社訪問など、理工系分野への興味を高める機会を提供しています。このプログラムの一環として、特に理工系に興味を持っていない女子中高生を対象に、「のめりこみプログラミング」教室が企画されました。この教室は、参加者がプログラミングの基礎知識を学びつつ、論理的思考や問題解決能力を身につけることを目的としています。また、プログラミングを通じたものづくりの楽しさを体験してもらうことで、将来的な理系分野への関心を喚起することを狙っています。

この教室は、図1に示すように、初級編、中級編、上級編とで構成されています。初級編では、ドローンやロボットの操作を通じて、基本的なプログラミングスキルを学びます。中級編では、2日間をかけてゲーム作りに集中し、実践的なスキルを習得します。さらに、上級編では、画像処理やネットワークセキュリティなどのより実用的なプログラミングに焦点を当てています。

本稿では、これら各コースの詳細と実際の内容について報告します。



図1 のめりこみプログラミングのコース紹介 (案内チラシの抜粋)

2. のめりこみプログラミング教室

のめりこみプログラミング教室は、初級編、中級編、上級編から構成されており、それぞれが異なるレベルのプログラミングスキルや経験に焦点を当てています。初級編では、プログラムの通りに動作するロボットなどを利用してプログラミングを体験してもらいます。中級編では、より複雑なプロ

グラムが必要とされるゲームの製作を通してプログラミングの楽しさを体感してもらえるように構成されています。上級編は、より専門的な内容で実践的なプログラミングを体験してもらいます。

全体のスケジュールは、初級編の参加者が、中級編や上級編にも進むことができるよう計画されました。また、このプログラミング教室は、女子中高生だけでなく、男子生徒や社会人も参加してもらえるように企画されています。

2. 1. 初級編

当初は、10月21日と28日に実施する予定でしたが、参加人数の関係で10月28日に初級編が実施されました。参加者は、中学生1名、女子高校生3名、社会人女性1名、小学生1名の6名でした。

初級編は、プログラミングの基本的な概念を楽しみながら学ぶという目的で、ドローンの飛行体験と走行型ロボットの操作の2部構成で実施されました。ドローンの飛行体験ではScratchを使って離陸から着陸までの飛行手順をプログラミングし、軌跡でいろいろなパターンを描く飛行やセンサを使った机への着陸などを体験してもらいました。走行型ロボットの操作では、装備されたペンで図形や文字を描く課題に取り組みました。

プログラミングについては、企業の方とサポート学生により丁寧に教えることができたので、あらかじめ準備された課題は、参加者の方は全てクリアすることができました。

2. 2. 中級編

11月11日と18日の午前と午後に1コマ（2時間）の合計4コマにわたり、中級編を実施しました。参加者は、中学生3名（うち女性2名）、女子高校生2名、小学生1名（男子）の6名でした。

中級編では、Scratchを用いたオリジナルゲームの作成に取り組んでももらいました。1日目（11日）には、簡単なゲーム作成を通してScratchの使い方を学習し、その後、自分が作成したいオリジナルゲームの考案を行ってもらいました。2日目（18日）には、考案したゲームのプログラミングに取り組んでももらいました。最後に、参加者どうしで作成したゲームを互いに遊んでもらいながら発表会を行いました。中級編の様子は図2の通りです。



図2 中級編の様子

体調不良などにより1日目に参加できなかった生徒が数名いたため、以下のような補習をオンラインで実施しました。補習を受けた参加者については2日目では、特に問題なくプログラミングを進めていました。

- (1) 動画によるゲーム作成のオンデマンド式のチュートリアル
1 日目のプログラミングを行っている画面を動画として作成し、YouTube でそれを見てもらい独学で学習してもらいました。
- (2) オンライン形式での質問対応
Zoom を利用して、実際のプログラミングの画面を共有しながら、(1) の動画でわからなかったところやできなかったところに取り組んでももらいました。その後、ゲーム作りのコンセプトについて検討してもらいました。2名の生徒が参加しました。

2. 3. 上級編

中級編と同じく 11 日と 18 日の 2 日間 4 コマにわたり、上級編が実施されました。上級編では、図 3 に示すようにより実践的な内容を Python というプログラミング言語で実装してもらうというもので、以下の 3 つのコースを設定しました。

- (1) 画像処理
OpenCV を利用して画像処理手法を学ぶ
- (2) データ解析基礎
様々なデータの解析とグラフによる可視化について学ぶ
- (3) 情報セキュリティー
インターネットでのセキュリティー技術について学ぶ



図 3 上級編の内容

参加者は、画像処理が 5 名（女子中学生 1 名、女子高校生 4 名、うち 1 名は初級編参加者）、データ解析基礎が 5 名（女子高校生 5 名）、情報セキュリティーが 2 名（男子中学生 1 名、社会人女性 1 名）でした。

上級編では、3 コースの共通として、1 日目の 1 コマ目に、本学の教員により、プログラムの書き方と動かし方、ループや分岐などの構造、変数の使い方などについて Python のチュートリアルを行いました。内容は、少し高度でしたが、サポートの大学院生らの協力により、全くわからないということにはなりませんでした。上級編の様子は図 4 の通りです。

上級編でも、初日に参加できない生徒がいたため、2 日目に向けて以下のように補習を行いました。

- (1) 出張講習会の実施
今回、多くの生徒に参加していただいた情報科学高校に出向き、放課後の時間を利用して高校の演習室で Python チュートリアルを行いました。
- (2) オンライン学習（画像処理のみ）
1 日目に実施した内容を、サポート学生が中心となりオンラインで実施いたしました。

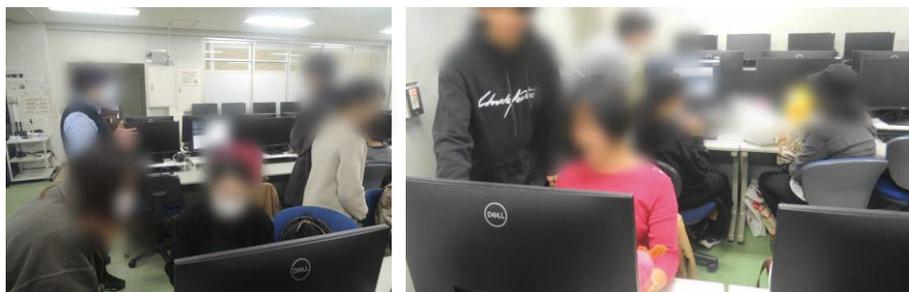


図4 上級編の様子

3. おわりに

今回の「のめりこみプログラミング」の初級編、中級編については、企業の方に企画していただきました。優しいプログラミングの基本から始まり、徐々に高度な技術へと進むカリキュラムは、参加者のスキルレベルに合わせて細やかに調整されていました。参加者も途中脱落することなく、最後まで進めることができました。上級編は、大学で行っているような技術を習得したいというニーズに応じるために大学側で企画をいたしました。最後の振り返り会で少々難しいという感想はありましたが、こちらも途中で脱落するものもなく楽しく学ぶことができましたようです。

私自身は上級編の講師をしており、全ての教室に参加できたわけではありませんが、初級編、中級編ともに、参加者の方には満足していただけたようでした。すべてのコースにおいて、開始時にはプログラミングは難しいものというイメージがあるようで、緊張しながらコンピュータを触っている様子でしたが、ロボットが動いたり、自分の思い通りにキャラクターが動いたりすると、積極的に取り組んでいるようで、自分が出した新しいアイデアを実現するためにどうしたらよいかをサポートの学生に聞くというように積極的に取り組んでもらうことができました。

今回のプログラミング教室では、大分市や学校などの行事と重なったなどの理由により、参加者を思うように集めるのが難しかったという問題がありました。実際に仕事でプログラムを作成している人や大学で研究をおこなっている人から直接アドバイスを受けることで、プログラミングの知識と経験を得ることができるのが、この教室の大きな魅力の一つです。この教室のような機会が増え、より多くの生徒のみなさんが、理工系分野へ興味を持っていただき、将来の進路選択の一つとなる手助けとなることを期待します。

利益相反の自己申告書の Moodle 活用について

研究推進部産学連携課外部資金・知的財産係長 日野 貴士

大分大学では平成 21 年 4 月 27 日制定の「国立大学法人大分大学利益相反マネジメント規程」に基づき、1 年に 1 度全教職員に対して利益相反マネジメントのための調査を行っています。

対象者は 2,000 人を超え、全教職員からの回答を取りまとめるのに非常に苦労しておりました。令和 3 年度まではアナログ的な方法で実施しており、回答は全て紙媒体での提出としていたため、提出された自己申告書を 1 名ずつ目視で確認しなければならず、取りまとめるのに膨大な時間がかかっていました。

また、癖のある字や読みづらい字で提出される方も多く、その判読に時間を要したり、準備していた対象者マスタと違う名前（改姓等）や、異動などによる所属の不一致などの問題がありました。



その対策として令和 2 年 12 月に着任した現在の知的財産管理部門長より、紙ではなく Web で実施してはどうかとの提案があり、令和 3 年度第 2 回利益相反マネジメント委員会において Moodle を使用して実施することが承認されました。これにより、昨年度から Moodle で実施してきました。（図 1）紙媒体で行っていた当時の問題点は解消され、取りまとめにかかる時間が大幅に削減されました。

特に紙媒体の時は一人ずつ全ての設問に目を通す必要がありましたが、Moodle は全回答者の回答を CSV で取り出すことができ、一括して回答内容の確認ができるため、利益相反にあたるような回答をした教職員がすぐに把握できることが一番の要因だと思います。

また、紙で提出されていた申告書の管理（10cm のドッチファイル 3 冊程度）もなくなりました。超過勤務も過去に比べて少なくなっていることが分かりました。

令和 5 年度利益相反自己申告書（第 1 次）

1 * 所属部署を選択してください。(Please describe your department.)

2 * 職名を記載してください。(Please fill out your job title.)

3 * (事前確認) ①利益相反とは何か、利益相反マネジメントとは何かを正しく理解している。
 (You have a good understanding of what conflict of interest is and what conflict of interest management is.)
 ※理解していない場合はFD研修の資料を視聴ください。
 (If you do not understand, please view the FD training materials.)

私は、利益相反とは何か、利益相反マネジメントとは何かを正しく理解しています。(I have a good understanding of what conflict of interest is and what conflict of interest management is.)

いいえ、私は利益相反とは何か、利益相反マネジメントを理解していません。(No, I don't understand what conflict of interest is, conflict of interest management.)

4 * (事前確認) ②大分大学利益相反ポリシーを確認し、その内容を理解していますか。
 (Have you checked and understood the Oita University Conflict of Interest Policy?)
 ※理解していない場合は大分大学利益相反ポリシーをご一読ください。内容が不明の場合は、事務局へお問い合わせください。
 (If you do not understand, please read the Oita University Conflict of Interest Policy. If you do not understand the contents, please contact the secretariat.)

私は、利益相反ポリシーを正しく理解しています。(I understand the Conflict of Interest Policy correctly.)

図 1 Moodle の入力画面

NII FileSender について

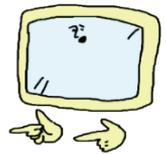
～Proself に代わる大容量ファイル転送サービス～

学術情報拠点情報基盤センター

2023年9月29日に大学での運用が終了した「ファイル共有システム (Proself)」の
代わりになるファイル共有サービスはありますか？



Googleドライブを利用するのも1つの手だけど、
今回は「NII FileSender」について紹介するね。

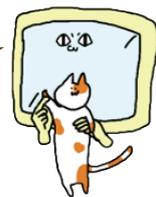


NII FileSender とは

NII FileSender^[1]とは、NII（国立情報学研究所）^[2]が提供する大容量ファイル転送サービスです。NII FileSender を用いることで、メール添付に適さないサイズの大きなファイルの受け渡しも可能になります。

- 10GB までのファイルをアップロード可能です。
- 一度に転送できる最大ファイル数は 30 個です。
- ファイルの有効期限は最長で 20 日間まで指定可能です。（短縮される可能性有り）
- ダウンロードの有効期限が過ぎたファイルについては自動的に削除されます。

NII FileSender : <https://filesender.nii.ac.jp/>



利用対象者

- ◆ 大分大学のアカウントを持っている方
大学の統合認証システムを介して NII FileSender にログインします。

利用方法

詳細は、情報基盤センターHP からご確認いただけます。

- ◆ ファイルの共有方法について : <https://www.cc.oita-u.ac.jp/page-15547/>

[1] NII FileSender : <https://filesender.nii.ac.jp/>

[2] 大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立情報学研究所 (NII) : <https://www.nii.ac.jp/>

ウイルス対策ソフトウェア変更のご案内

2023年度基盤システムの更新にともない、ウイルス対策ソフトウェアは、Trendmicro社のApexOneに変更となりました。

インストール可能な機器

- 本学所有の機器
- 本学の構成員（教職員・学生、附属校園の教員・生徒は除く）が本学に持ち込む機器（一人当たり計3台まで）

インストール手順

1. SymantecEndpointProtection など他のウイルス対策ソフトがインストールされている場合は、あらかじめアンインストールを行ってください。
2. インストーラをダウンロードします。ダウンロード手順は各キャンパスにより異なります。
3. インストーラを起動してインストールを行います。

※詳細は情報基盤センターホームページの以下のページをご覧ください。

<https://www.cc.oita-u.ac.jp/in/in-guide/antivirusinstall/>

旧 Symantec Endpoint Protection の利用期限

Symantec Endpoint Protection は2024年2月初旬で終了となります。これまで利用されていた方は、早目にアンインストールを行い、新しいウイルス対策ソフト ApexOne に切り替えてください。アンインストール手順は上記インストール手順のページを参照してください。なお、事務リースパソコンをご利用の方は、情報化推進室の指示にしたがってください。



ウイルス対策ソフトは必ずインストールしましょう。

毎年多くのセキュリティインシデントが発生しています。

<https://www.ipa.go.jp/security/10threats/10threats2023.html>

ウイルス対策ソフトはこれらを防ぐのに役立ちます。

ただし過信は禁物です。おかしい動作をしていると思ったらウイルスチェックを行ってみてください。

よくある質問回答集

-Gmail/GoogleGroup 関連-

Q Gmail で送信できるサイズに制限はありますか？

A Gmail で送受信可能なメールの最大容量は 25MB 以内です。大きなサイズのファイルを送信したい場合は、NII¹ の FileSender²（HTML5 対応ブラウザの場合、最大 10GB まで、それ以外のブラウザでは最大 2GB までのファイルをアップロードできます）や Google Drive（受け取る方も Google アカウントが必要です）等をご利用ください。

Q Gmail では 1 日に送れるメールの数に制限がありますか？

A Gmail では 1 日に送信できるメールの数は以下となっています。

- ① 利用者が直接メールを送信する場合：上限 2,000 通／1 日（24 時間）／ユーザ
- ② Google Apps Script でメールを送信する場合：上限 1,500 通／1 日（24 時間）／ユーザ

※同じドメインのアドレスであれば①と同じ

Q システムからのアラートを通知するために Gmail を利用することは可能ですか？

A 学内システムからのメール通知のためには、別途中継用のメールサーバを用意いたします。そちらをご利用ください。

¹ NII(National Institute of Informatics) 国立情報学研究所

² <https://filesender.nii.ac.jp/>

Q Gmail にログインすることができません。どうすれば良いですか？

A Gmail などクラウドシステムを利用する場合、利用者 ID 配布時またはパスワード初期化時の初期パスワードのままでは利用することができません。最初にパスワード変更を行ってください。パスワードの変更は[情報基盤センターホームページ](#)左側メニューの「情報システム【一般】」>「パスワード変更」から行ってください。

Q Gmail で文字が一部が文字化けしたり表示されません。どうすれば良いですか？

A ブラウザによって文字化けが発生することがあります。Chrome ブラウザ等を使うことで解決する場合があります。

Q Gmail を Thunderbird や Outlook などで利用することは可能ですか？

A スマートフォンや他のメーラを使うことができます。各 OS での設定方法を[情報基盤センターホームページ](#)で紹介しています。

Q Gmail に届いたメールを個人のメールアドレスに転送できますか？

A 転送はできませんが、個人のスマートフォンの Gmail アプリに登録することでスマートフォンでメールを利用することが可能です。スマートフォンでの設定方法は、[情報基盤センターホームページ](#)をご覧ください。

Q 送られたはずのメールが届きません。原因は何でしょうか？

A 別のラベルが付与されている場合があります。Gmail で検索するか、「もっと見る」>「すべてのメール」を表示してメールがないか確認をしてみてください。また、以下の場合はメールが届きません。

- 自分が所属するグループ宛に自分が出したメール。グループのメールアドレスを自分のエイリアスとして登録していた場合は、届きます。
- Google がセキュリティに問題があると判断したメール。詳細は [コチラ](#) をご覧ください。

Q メールを再送信するにはどうすれば良いですか？

A Gmail ではメールの再送信機能はありません。代替案として、メール本文が同じメールを送りたい場合は、「転送」を行います。同じ宛先で送りたい場合は、「全員に返信」で送ります。

Q メールの返信が1つのメールとなって表示されます。見やすくできますか？

A Gmail の既定の設定ではメールの表示がスレッド形式となっています。関連するメールが1つにまとまるため便利である反面、未読メールが見つげにくいといったデメリットもあります。スレッド形式の表示は、各自で解除することができます。[コチラ](#) を参照に、「スレッド表示」のオン・オフを切り替えてみてください。

Q メールの開封確認機能は使えますか？

A 開封確認機能は、受信者が使用しているメーラによって異なることなどから、本学では開封確認機能は使用できません。

Q **メーリングリストの管理者を変更するにはどうすれば良いですか？**

A 申請時の管理者を変更する場合は、申請システムでメーリングリストの管理者変更を行ってください。それ以外であれば、管理者の方が、追加や変更を行うことができます。

Q **メーリングリストのメールアドレスを送信者にしてメールを送れますか？**

A 個人のメール設定で送信者の設定を行うことで、メーリングリストのメールアドレスを送信者とすることが可能となります。設定方法については[情報基盤センターホームページ](#)をご参照ください。

Q **メーリングリストの件名に付く連続番号が重複します。原因は何ですか？**

A Google グループでは、短期間に複数のメールを受信した場合、番号が重複したり飛んだりする場合があります。

Q **自分がメーリングリスト宛に送ったメールや、Google グループにアーカイブされている会話にプレフィックスが付きません。どうすれば良いですか？**

A Google の使用で、自分が送信したメールや、Google グループにアーカイブされた会話にはプレフィックスはつきません。

Q Google グループの特定のメンバーにメールを送信しないことは可能ですか？

A 各自で設定が可能です。グループ一覧画面で登録列の値を「メールなし」に設定してください。グループ管理者の方は、メンバー一覧画面で同様の設定が可能です。

Q 自分が送信していないメールが自分の送信済みに表示されるのはなぜですか？

A 送信者アドレスとして別のメールアドレスをエイリアスとして登録していた場合には、他の人がそのメールアドレスを送信者として送信すると自分の送信済みに表示されます。

Q メーリングリストのメンバーに学外者を登録することはできますか？

A 初期設定の状態では学外者の登録ができませんが、設定を変更することで登録が可能となります。設定方法については、[情報基盤センターホームページ](#)をご覧ください。なお、メンバーに登録された学外者の方は、グループメールを受信することは可能ですが、Google グループの画面で閲覧することはできません。

Q Google グループに過去のメールが保存されていますが、グループメールアドレスを送信者にして送信したメールも保存されますか？

A いいえ、送信者として送信したメールは原則保存されません。送信したメールも保存したい場合は、Cc または Bcc にグループメールアドレスを含めて送信してください。

-Zoom 関連-

Q 「リクエストされたサービスの対象になりません」と表示され Zoom にサインインできません

A 職員の方が Zoom を利用するには申請が必要です。詳細は、[情報基盤センターホームページ](#)をご参照ください。

Q Zoom アプリで大学の ID とパスワードを入力してもサインインできません

A Zoom アプリのサインイン方法では「sso」を選択してください。ドメインは「oita-u.zoom.us」となります。また初期パスワードを変更していない場合は変更を行ってください。

Q 大学のアカウントで Zoom にサインインしても有料版になりません。なぜでしょうか？

A Google アカウントでサインインを選択した場合は無償アカウントとなります。サインイン方法は「sso」を選択してください。

Q 海外から Zoom 会議を開催する予定です。開催時刻は日本時刻で設定する必要がありますか？

A Zoom の開催時刻は目安となりますのでどちらで設定しても開催することは可能です。ただし開催時刻として表示されるため、参加者の多くが日本におられる場合は日本時刻で設定されるのが良いと思います。また、Moodle から開催する場合は開催時刻にならないと会議開催のボタンが表示されないため日本時刻での設定が必須となります。

Q Zoomの**注釈機能**を使いたいのですが表示されません

A 既定の設定では無効となっておりますが、ホストの方が設定変更をすることが利用することができます。

【設定方法】

- ① [情報基盤センターホームページ](#)左側の[ビデオ会議システム]をクリック
- ② Zoom にサインインしてください
- ③ 左側にある[設定]を選択
- ④ 下にスクロールして[注釈]を有効に変更する（設定の真ん中くらいに項目があります）

-Moodle 関連-

Q Moodleで**過年度のコース**を閲覧することはできますか？

A Moodleでは一度開講したコースは原則閉鎖しないため開講年度を過ぎても閲覧することが可能です。ダッシュボードに表示されない場合は、「コース概要」のフィルタ設定を「すべて」または「過去」に変更してみてください。

Q Moodleで**パスワードを何回か続けて間違えてしまいロック**がかかりました。どうすれば**解除**できますか？

A 10分程度待ついただくか、Moodleから届いたメールに記載されている手順にしたがって操作をすることで解除されます。解除後に正しいパスワードで再度ログインを行ってください。

Q Moodle のコース名を変更することはできますか？

A 教務情報システムから連携されたコースについては変更できません。手動で作成されたコースについては変更が可能です。[申請システム](#)より変更申請をお願いします。

Q Moodle で同じ名前のコースが複数表示されます。1つのコースに統合できますか？

A コース担当教員もしくは学務係・教育支援課からの申請でコースを統合することができます。申請については、[情報基盤センターホームページ](#)をご参照ください。

Q Moodle で自分が担当する予定のコースが表示されません。どうすれば良いですか？

A 開講前のコースについては、ダッシュボードのフィルタを「未来」または「すべて」にすることで表示されます。それでも表示されない場合は、各学部の学務係にお問い合わせください。

-その他-

Q 大学のネットワークで特定のサイトを開くことができません。モバイル回線を使うと開くことができます。どうすれば良いでしょうか？

A Firewall で不正なサイトとしてブロックされている可能性があります。調査いたしますので、サイトの URL を情報基盤センター／医学情報センターまでご連絡ください。

Q Google/ Microsoft365 で表示名を変更したいのですがどうすれば良いですか？

A Google については大学統合認証システムで管理しているため表示名の変更はできません。プロフィール写真の変更は行うことができます。またメール送信時に表示される名前は変更することができます。【設定】→【アカウント】→【名前】→【情報を編集】
Microsoft365 については、セキュリティの問題があり本学では氏名を表示しない方針となっています。

Q Teams を使うにはどうすれば良いですか？

A Teams を利用する場合は、Office365A1 の権限が必要となります。下記ページより申請をお願いします。詳細は[情報基盤センターホームページ](#)をご参照ください。

委員会／会議(2022年4月～2023年3月)

情報基盤センター

4月	第2回基盤情報システム・教育情報システム仕様策定委員会
6月	第3回基盤情報システム・教育情報システム仕様策定委員会
	第1回学術情報拠点運営会議
	第19回 国立大学法人情報系センター協議会総会【オンライン開催】
7月	第4回基盤情報システム・教育情報システム仕様策定委員会
8月	第1回情報基盤専門委員会広報部会
	第2回学術情報拠点運営会議
9月	IS研2022年度地区ブロック会 九州【オンライン開催】
	第1回情報セキュリティ委員会
	2022年度(第75回)電気・情報関係学会九州支部連合大会【オンライン開催】
	第26回学術情報処理研究集会【オンライン開催】
	第33回情報処理センター等担当者技術研究会
10月	第3回学術情報拠点運営会議
12月	情報処理学会第15回インターネットと運用技術シンポジウム(IOTS2022) 【ハイブリッド開催】
	大学ICT推進協議会 2022年度年次大会【ハイブリッド開催】
	第5回基盤情報システム・教育情報システム仕様策定委員会
1月	第6回基盤情報システム・教育情報システム仕様策定委員会【メール審議】
	第7回基盤情報システム・教育情報システム仕様策定委員会【メール審議】
	第8回基盤情報システム・教育情報システム仕様策定委員会【メール審議】
3月	第31回 国公立大学情報システム研究会総会【ハイブリッド開催】
	第2回情報セキュリティ委員会
	第4回学術情報拠点運営会議
	第9回基盤情報システム・教育情報システム仕様策定委員会【メール審議】
	第10回基盤情報システム・教育情報システム仕様策定委員会【メール審議】

委員会／会議（2022年4月～2023年3月）

医学情報センター

- [4月] 医学科・看護学科・大学院生・研修医オリエンテーション実施
Microsoft365ライセンス(教員・学生)付与
仕様策定委員会
- [5月] 医療情報学会九州沖縄支部会
院内FMC運用打ち合わせ
- [6月] おおいた医療ネットワーク
学術情報拠点運営委員会
インフォコム-テレビ会議設置
春季学会打ち合わせ（Zoom）
看護学科1年生講習会
医療情報学会春季学会（岡山）
センター協議会
- [7月] 学生研究発表
インフォコムBCP
- [8月] 看護協会教育研修
医療情報技師試験試験監督
情報基盤専門委員会
- [9月] IS研
63rdJSTM打ち合わせ
情報分析室打ち合わせ
- [10月] 医療情報学会九州沖縄支部会
学術情報拠点運営会議
- [11月] ネットワーク調査打合せ（NTT）
医療情報学連合大会
- [12月] CSIRT打ち合わせ
研究室説明会
AEDの学内LAN接続（アステム）
サイバーセキュリティWG
卒業予定者周知
データサイエンス打ち合わせ（Zoom）
- [1月] ミカサ商事（無線LAN）
- [2月] メール移行打ち合わせ
- [3月] 情報処理学会
個人情報保護委員会
学術情報拠点運営会議
AI勉強会
卒業生ID停止処理

2022 年度業務記録（情報基盤センター業務）

各種申請書受付件数（2022/4/1～2023/3/31）

	(件数)
「利用者 ID 作成申請」	2108
「利用者 ID の利用停止申請」※Web フォーム※旦野原・王子のみ	11
「固定 IP アドレス申請書」（様式第 2 号）※旦野原・王子のみ	318
「ワクチンソフト利用申請」※Web フォーム※旦野原・王子のみ	138
「無線 LAN アクセスポイント設置申請書」（様式第 7 号）※旦野原・王子のみ	41
「ホスティングサービス利用申請書」（様式第 3 号）※旦野原・王子のみ	9
「ファイアウォール開放設定申請書」（様式第 4 号）	16
「サブドメイン名申請書」（様式第 5 号）	6
「サブネットワーク申請書」（様式第 6 号）	0
「電子証明書の発行申請」※Web 申請	122
「VPN 接続申請」※Web 申請	70
「メーリングリスト申請書」※Web 申請	39
「DEEPMail 国別認証許可制限解除申請」※Web フォーム	47
「進学生メール転送申請」※Web フォーム※旦野原のみ	58
「Moodle コース作成申請」※Web 申請	302
「Moodle コース統合申請」※Web 申請他	470
「ALC NetAcademy Next 職員利用申請」※Web フォーム	5
「一時インストール申請書」（様式第 8 号）※旦野原のみ	2
「実習室利用申請」※Web フォーム※旦野原のみ	44
「プリンタ利用申請書」（様式第 1 号）※旦野原のみ	73

業務日誌（2022年4月～2023年3月）情報基盤センター

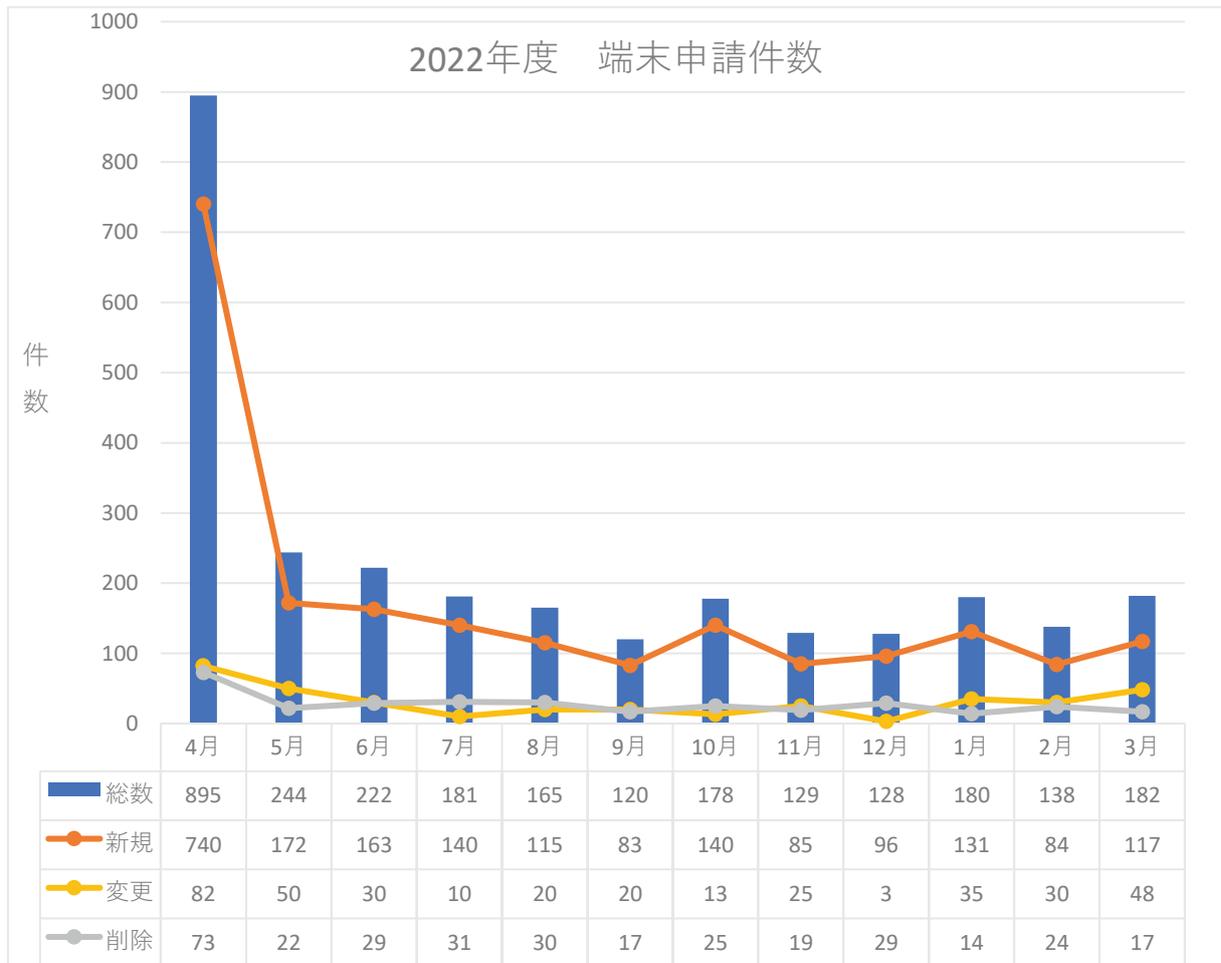
[4月]	<p>新入生利用者 ID・利用ガイド配布</p> <p>前期ゲスト ID 発行</p> <p>学内進学者のメール転送受付</p> <p>学内無線 Web 認証方式 (2010OITA1～2010OITA4)運用終了</p> <p>無線電波調整 (対象：複数の無線アクセスポイントを設置した教室)</p> <p>名誉教授パスワード変更依頼</p> <p>VPN 事前共有鍵の年度切替</p> <p>パスワード漏洩の可能性のあるアカウントに通知</p>
[5月]	<p>昨年度退職者、卒業生 ID 停止</p> <p>電気設備年次点検のための全学停電対応</p> <p>情報処理安全確保支援士オンライン講習受講</p> <p>Symantec Endpoint Protection バージョンアップ (14.3.RU4, Windows のみ)</p>
[6月]	<p>昨年度退職者、卒業生 ID 削除</p> <p>巨野原キャンパス無線アクセスポイント設置案について意見収集</p> <p>Zoom ウェビナーサービス開始</p>
[7月]	Moodle/Zoom 問い合わせ用チャットボットの運用開始
[8月]	情報基盤専門委員会広報部会開催
[9月]	<p>SINET データセンター接続の冗長化</p> <p>福利施設食堂棟への学内ネットワーク提供停止</p>
[10月]	<p>後期ゲスト ID 発行</p> <p>前期離籍学生 ID 停止</p> <p>Firewall ポリシー整理</p>
[11月]	<p>前期離籍学生 ID 削除</p> <p>Adobe 製品不正利用調査</p>
[12月]	e-learning による情報セキュリティ研修の実施
[1月]	<p>令和4年度情報基盤センター実習室予約受付 (定期分・臨時使用分)</p> <p>Symantec Endpoint Protection バージョンアップ(14.3 RU6)</p>
[2月]	<p>センター広報誌『Journal of IPCs Vol.43』発行</p> <p>ホスティングサービス利用継続確認実施</p> <p>Firewall 利用継続確認実施</p> <p>標的型メール訓練実施</p>
[3月]	<p>定年退職者予定者に退職後の利用 ID について通知</p> <p>退職者アカウント利用継続確認実施</p> <p>英語学習 e-Learning 教材 ALC NetAcademy データ初期化</p> <p>大学ホームページ合格者発表時の集中アクセスへの対応</p>

その他：基盤情報システム，教育情報システム更新にともなう仕様策定

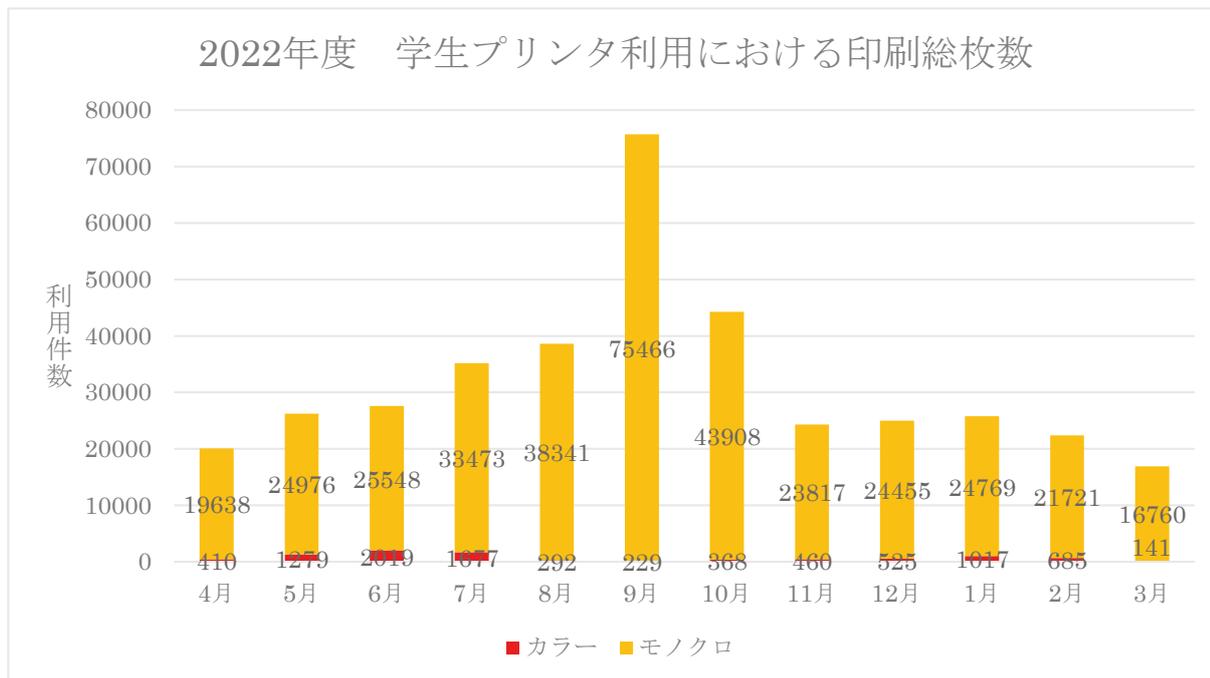
2022 年度業務記録（医学情報センター業務）

2022年4月～2023年3月

2022 年度 端末申請件数



2022年度 学生プリンタ利用における印刷総枚数



2022年度 ユーザ登録件数（学生以外）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
新規	138	13	11	10	8	12	15	11	13	9	6	47	293
変更	43	6	7	12	4	18	13	22	11	10	2	27	175
廃止	3	6	4	47	3	5	1	5	3	5	31	44	117
計	184	25	22	29	15	35	29	38	27	24	39	118	585

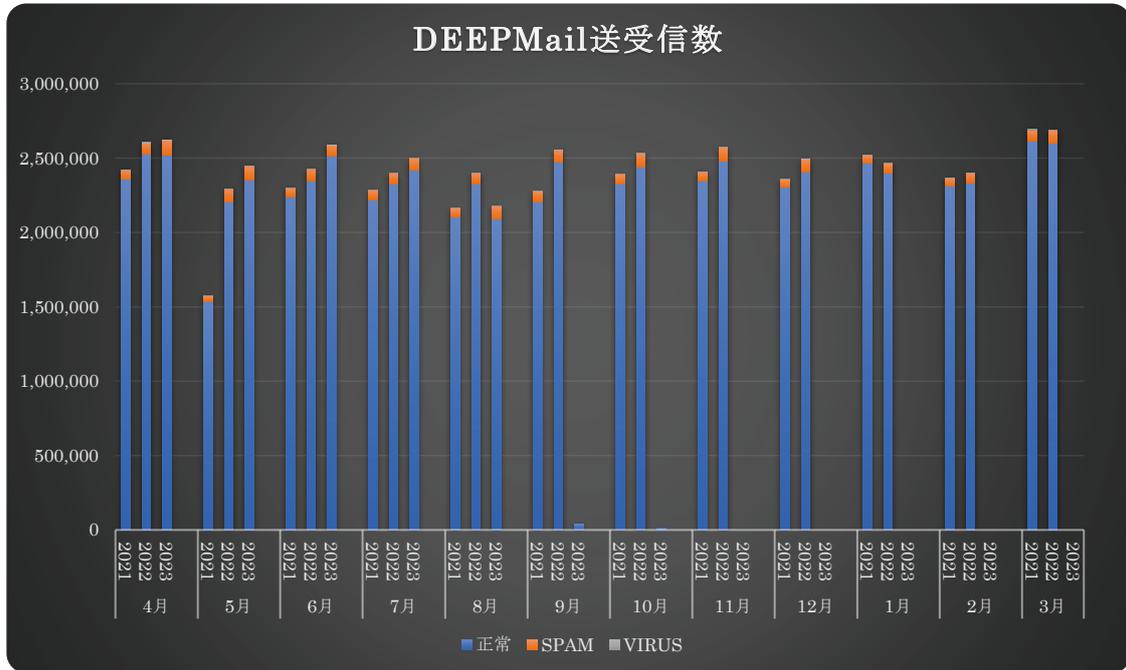
2022年度 ワクチンソフト申請件数

895件

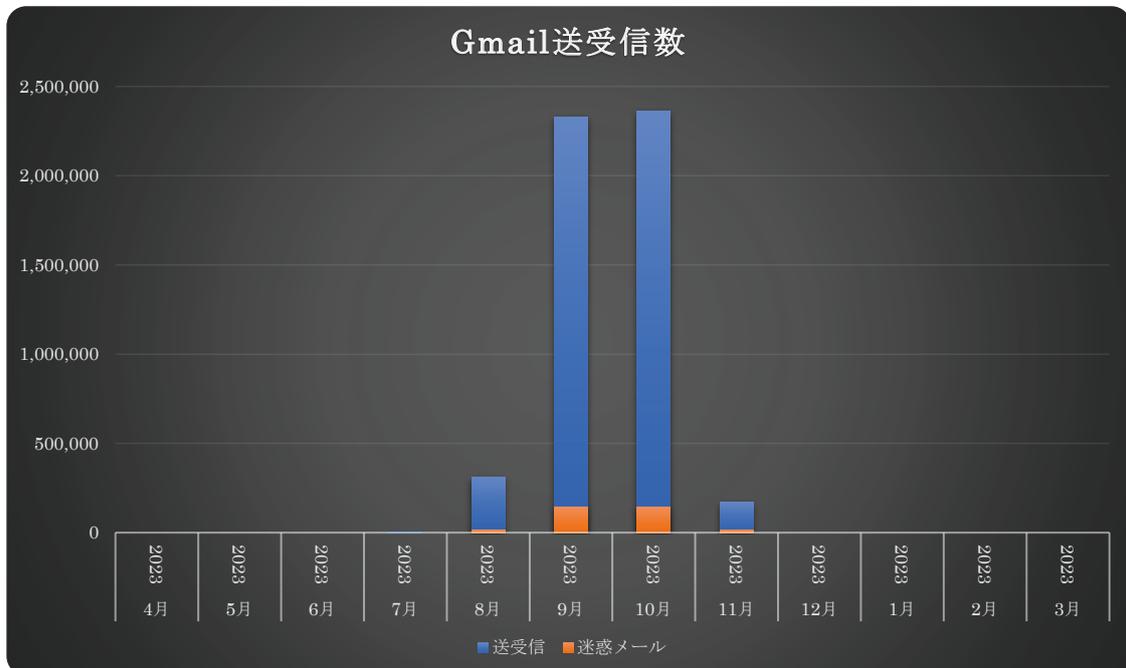
システム利用統計

DEEPMail・Gmail 送受信数 (2021/4/1～2023/11/7) ※2023年8月29日20時よりGmail利用開始

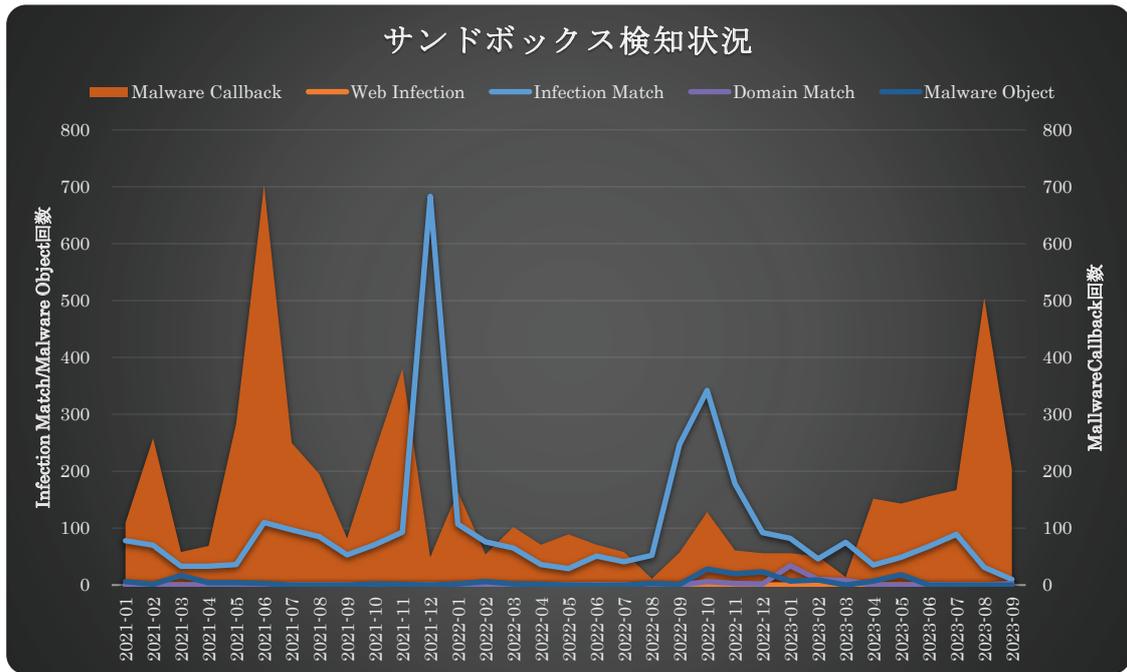
DEEPMail 送受信数 (2021/4/1～2023/10/31)

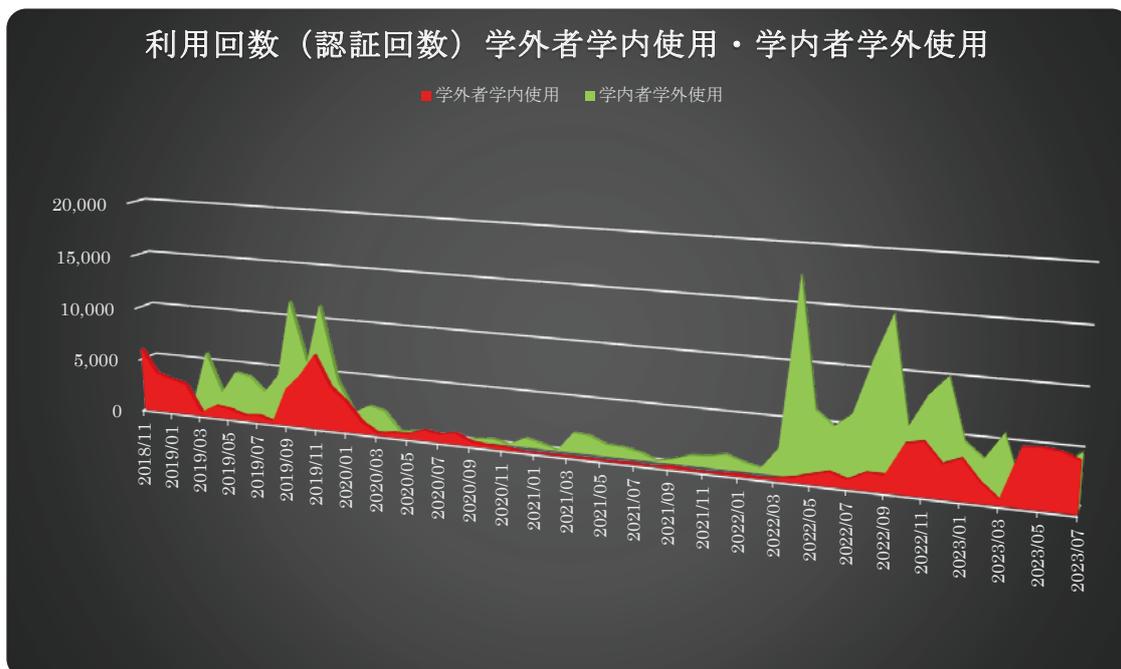
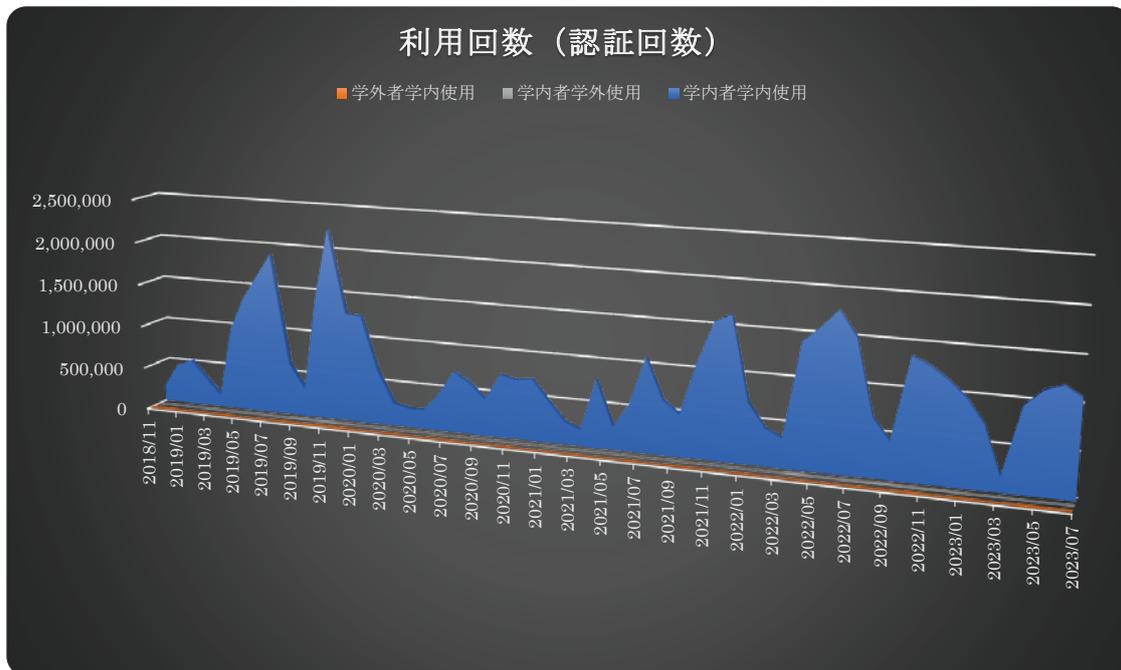


Gmail 送受信数 (2023/5/7～2023/11/7)



サンドボックス検知状況 (2021/1~2023/9)

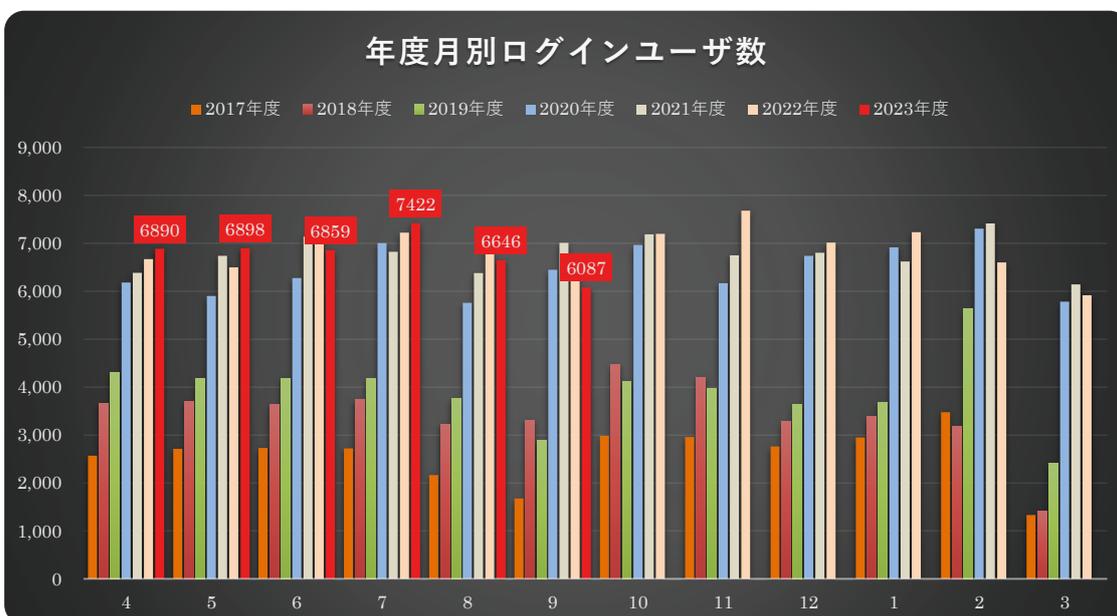
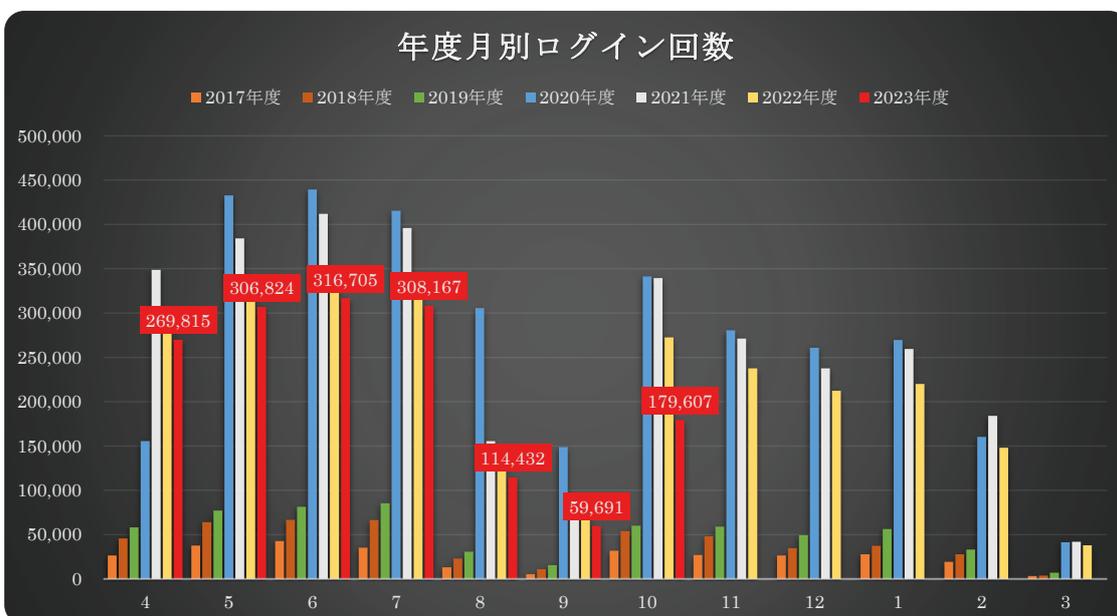


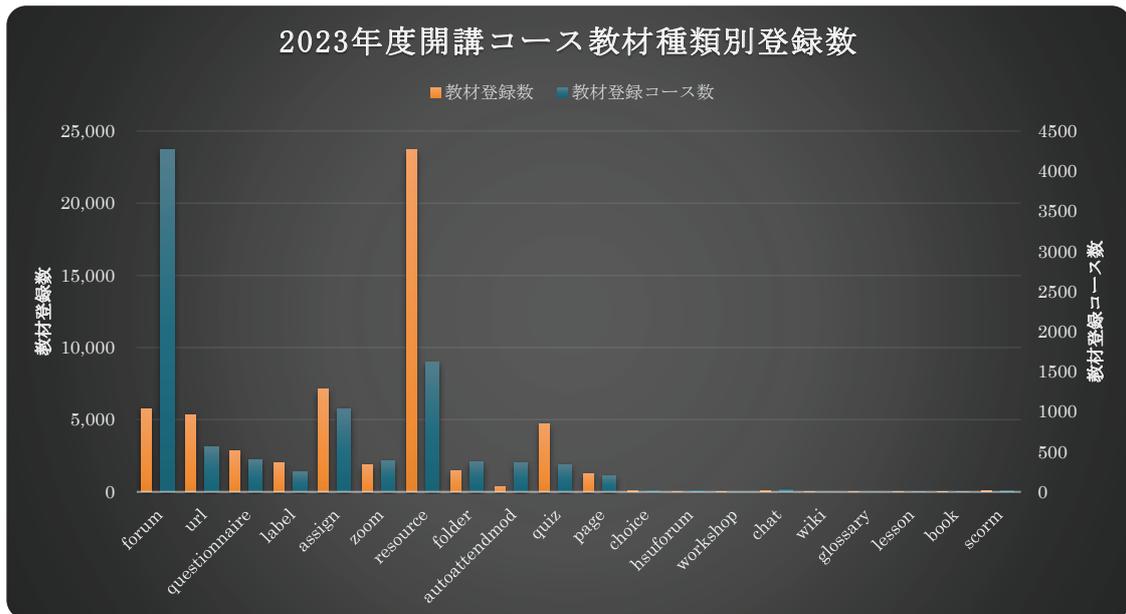


† 国際学術無線 LAN ローミング基盤 <https://www.eduroam.jp/>

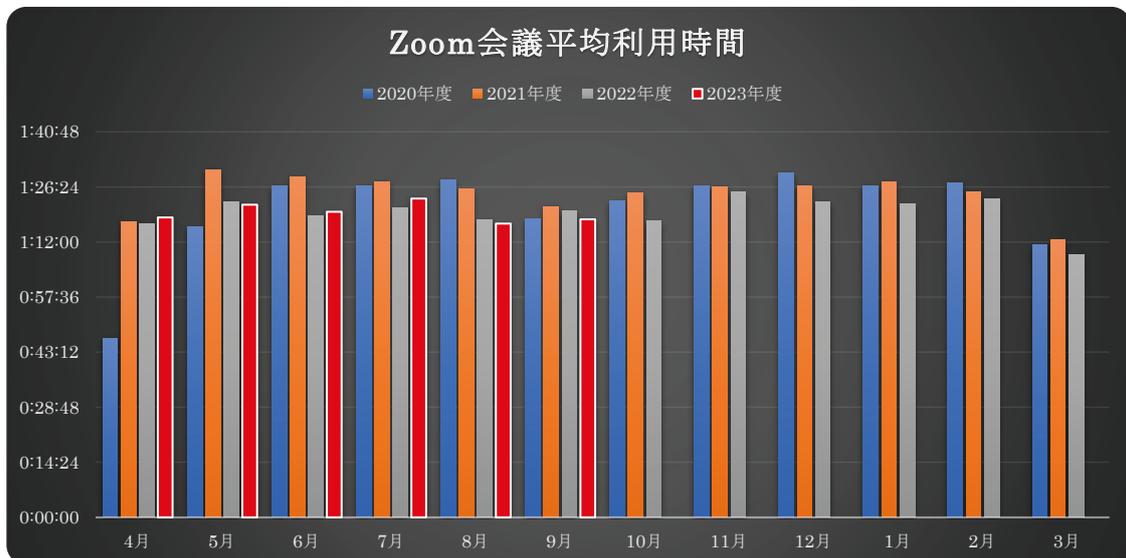
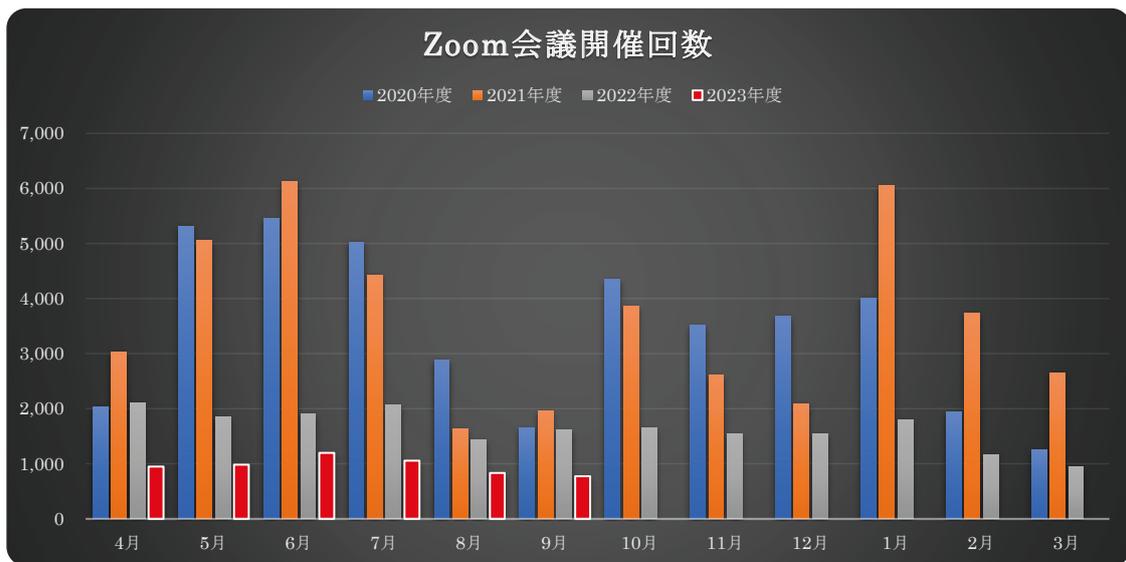


※教材が3個以上登録されているコースの数

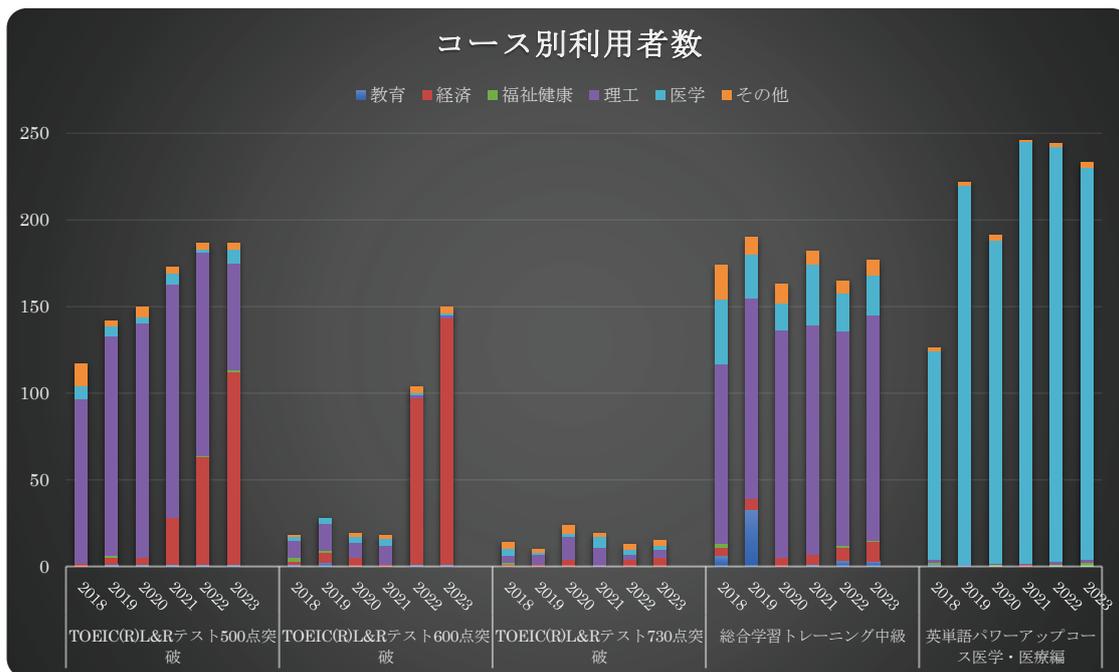




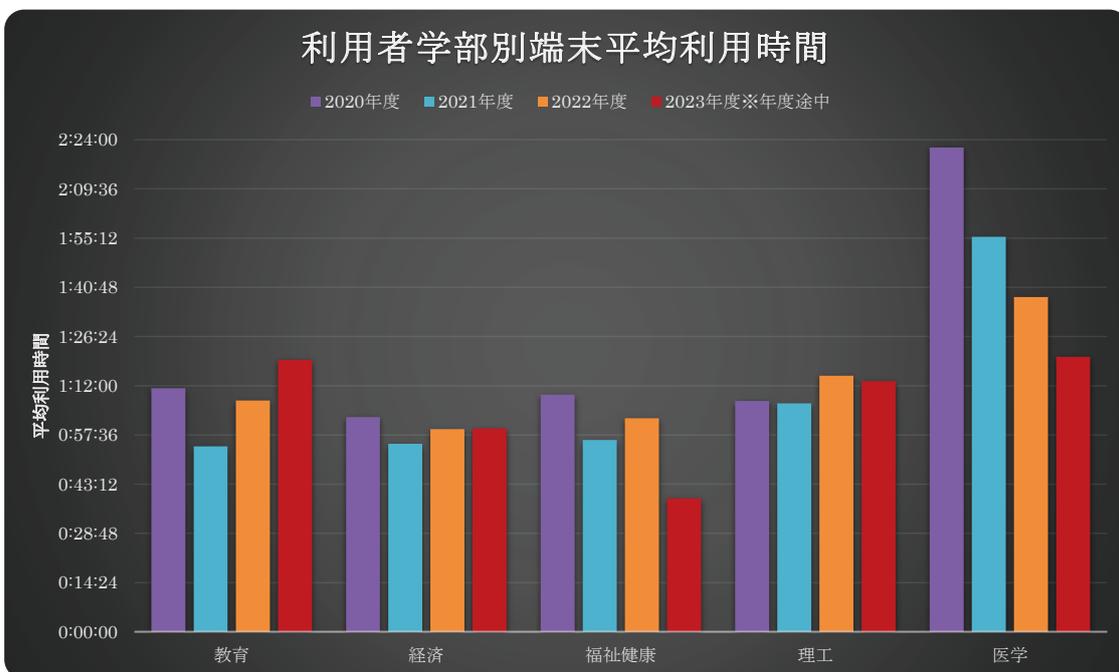
オンライン会議システム Zoom 利用状況 (2020/4~2023/9)

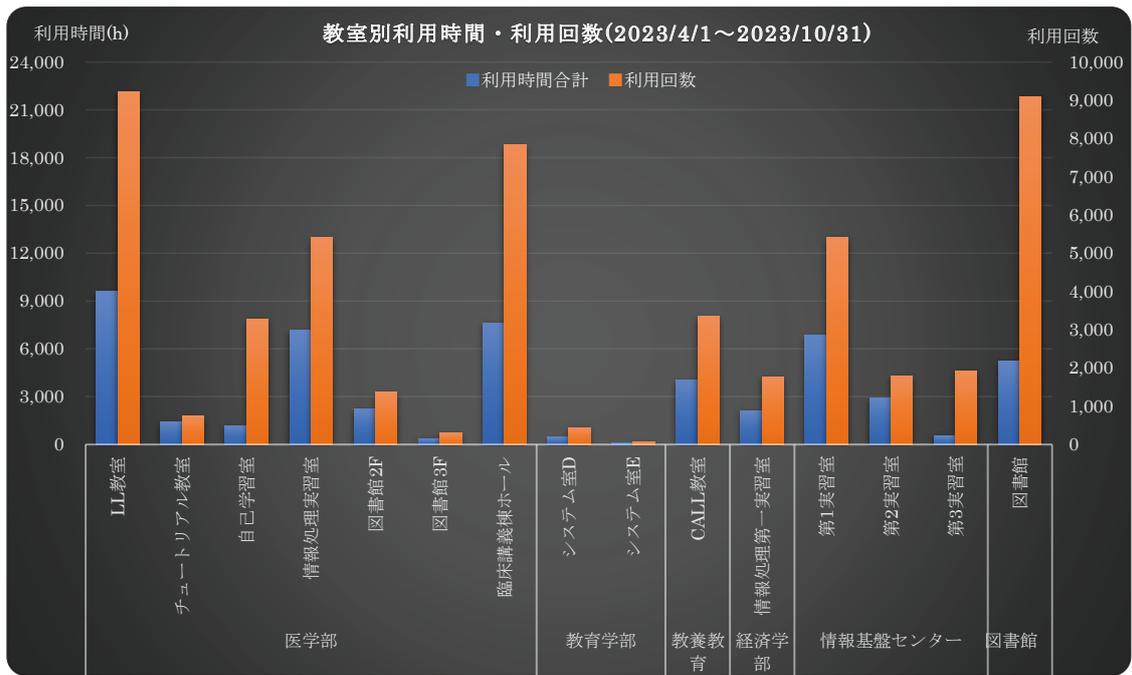


ALCNetAcademy 利用状況(2018/1/1~2023/3/22)

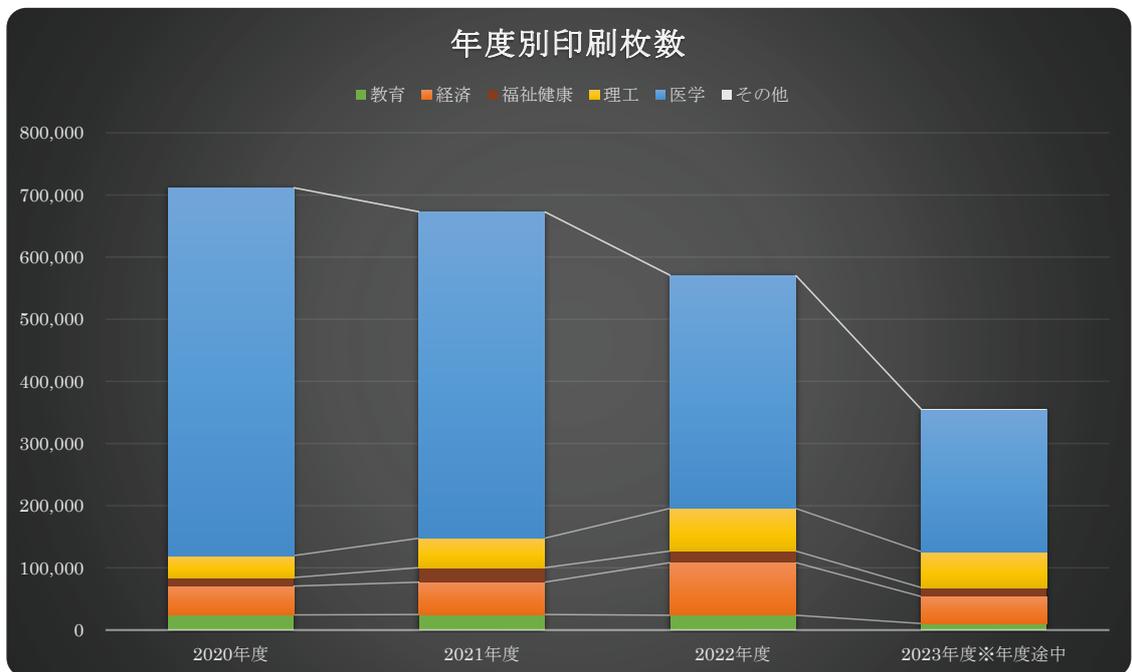


教育情報システム端末利用状況 (2020/4/1~2023/10/31)

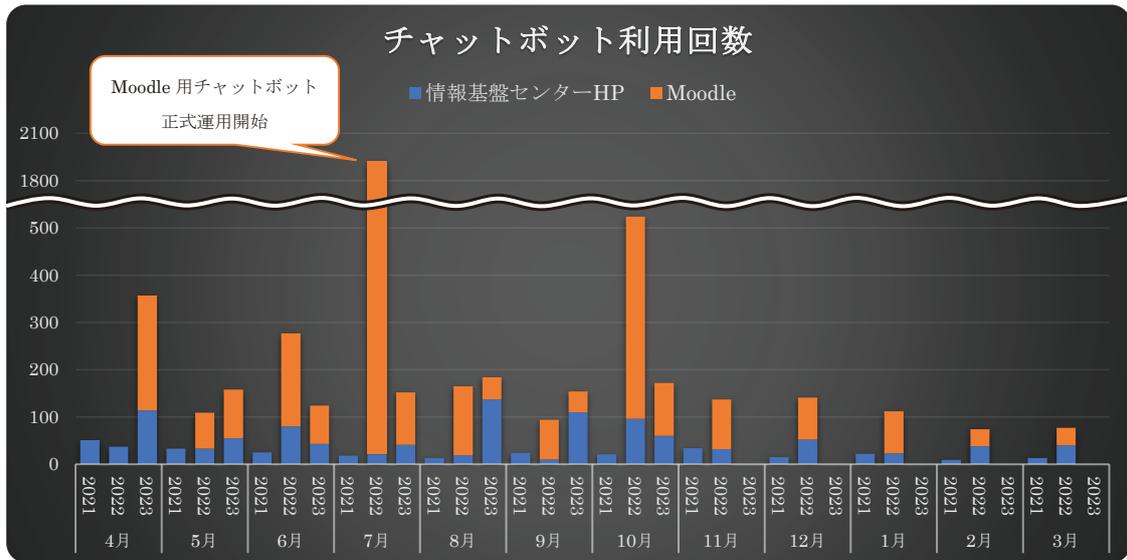




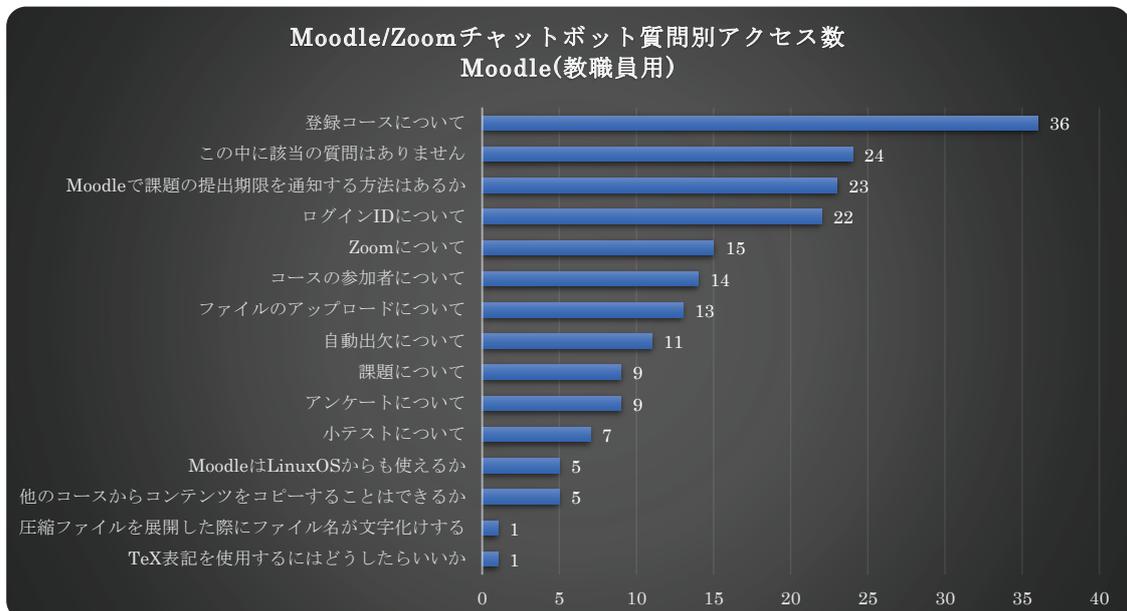
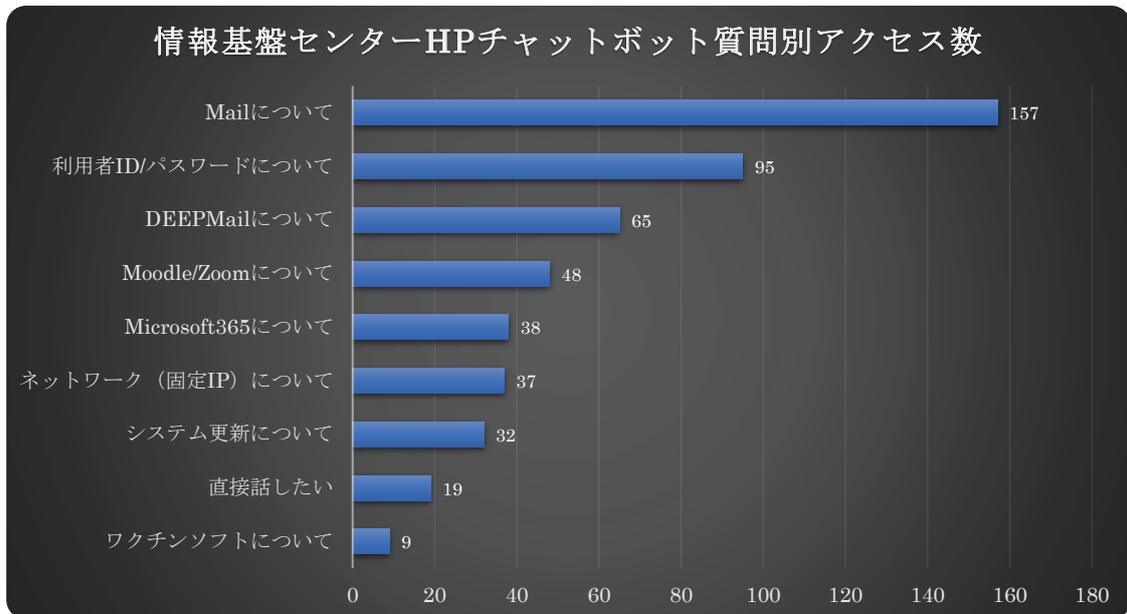
プリンタ利用状況(2020/4/1～2023/10/31)



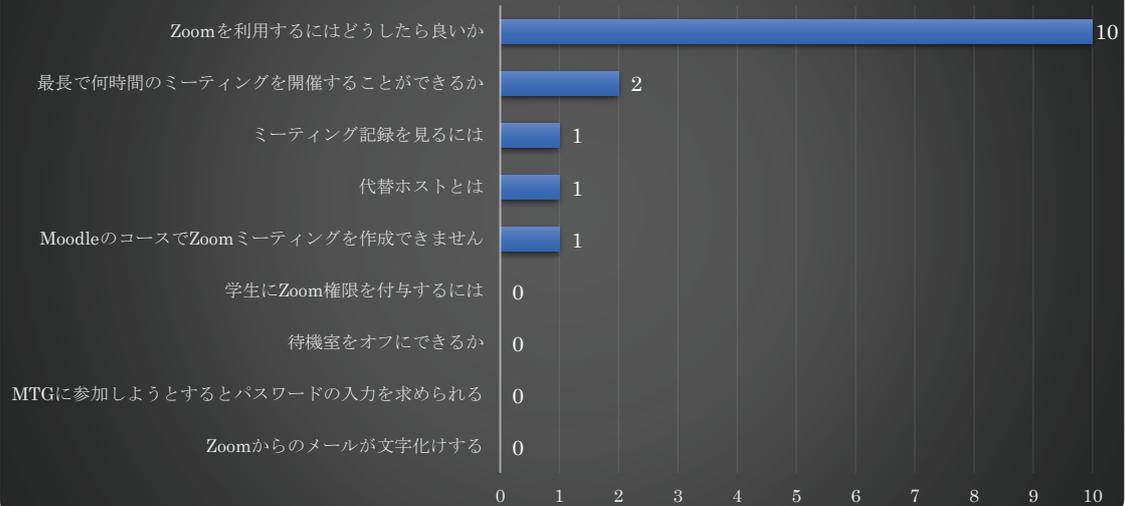
問い合わせ対応チャットボット利用状況 (2021/4/1~2023/10/31)



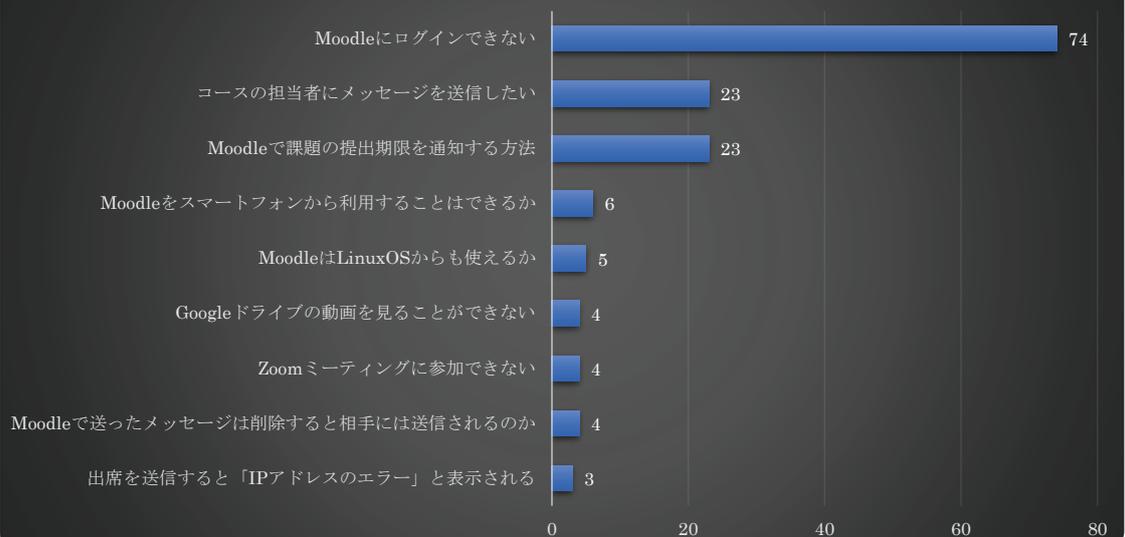
質問別アクセス数 (2023/4/1~2023/10/31)



Moodle/Zoomチャットボット質問別アクセス数 Zoom(教職員用)

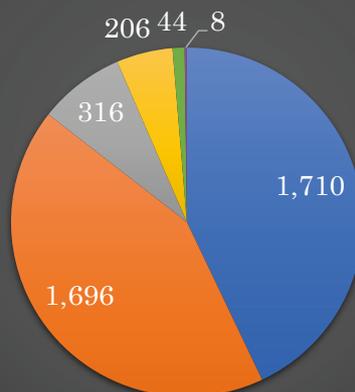


Moodle/Zoomチャットボット質問別アクセス数 (学生用)

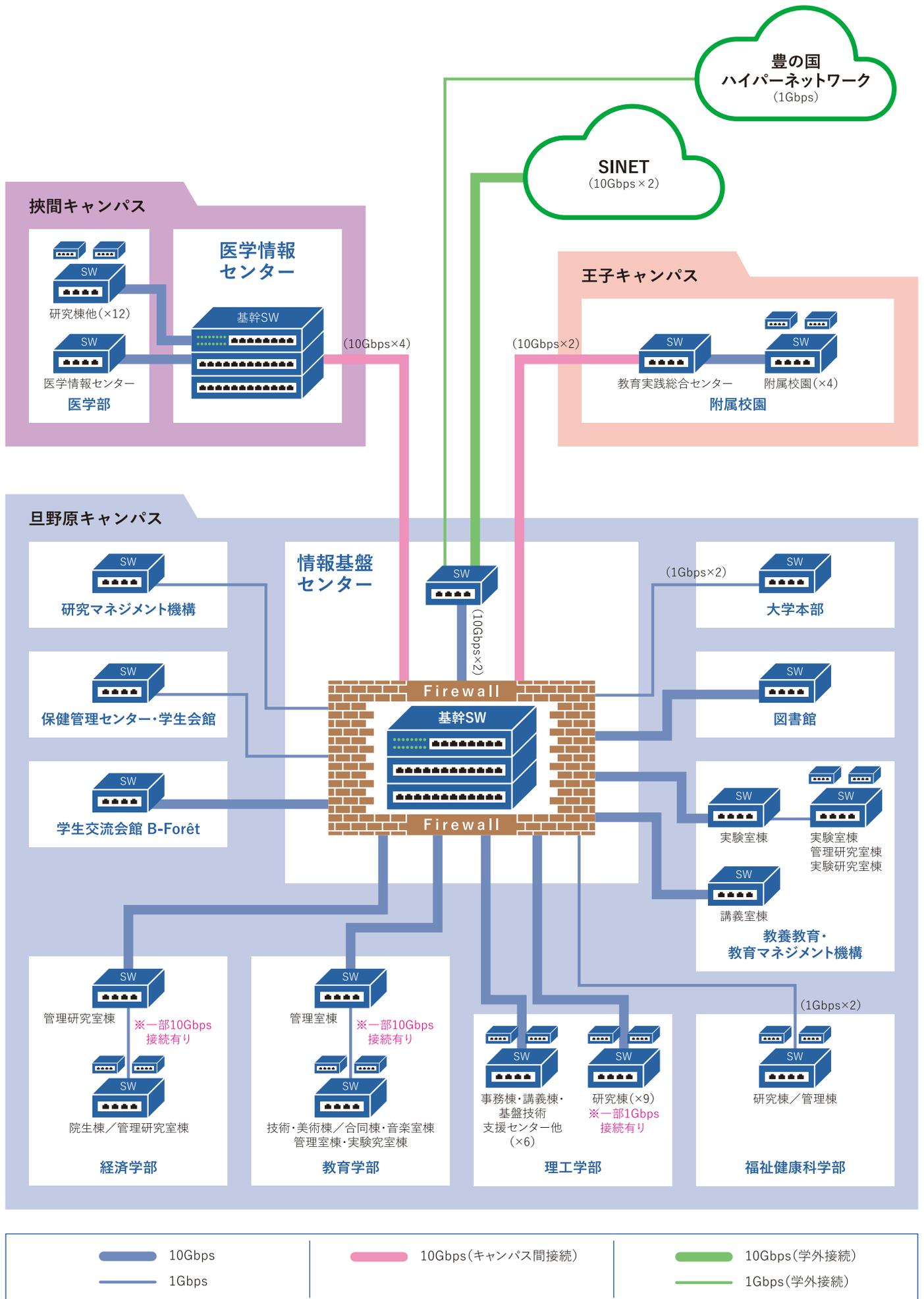


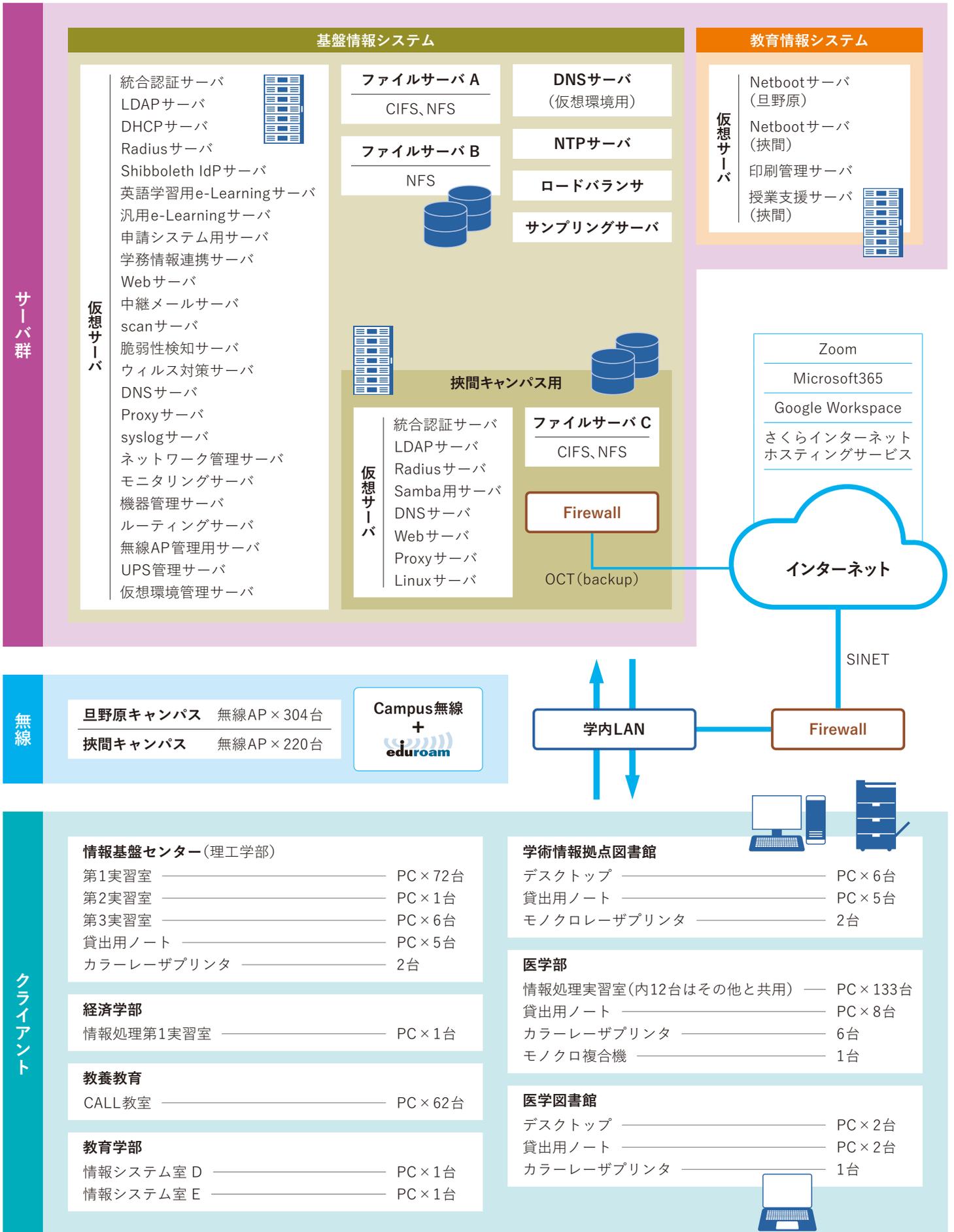
使用OS割合 (アクセス回数)

ios Windows MacOS Android Linux ChromeOS



キャンパスネットワーク構成図





学術情報拠点運営会議情報基盤専門委員会広報部会名簿

2023.4.1 現在

役職名等	氏名	任期
副拠点長（情報基盤センター担当）	吉田 和幸	
副拠点長（医学情報センター担当）	下村 剛	
学術情報拠点 准教授	吉崎 弘一	
医療情報部 准教授（医学情報センター）	安徳 恭彰	
教育学部 教授	甘利 弘樹	2023.1.1～2024.12.31
経済学部 准教授	村山 悠	2023.1.1～2024.3.31
医学部 准教授	下田 恵	2023.1.1～2024.12.31
理工学部 准教授	北西 滋	2023.4.1～2025.3.31
福祉健康科学部 准教授	八木 直樹	2022.4.1～2024.3.31

挨拶

情報基盤センターの矢田です。昭和 53 年に大分大学に着任後、富士通汎用機の時代から 40 年余りセンター業務に携わってきました。本年度末をもって退職します。たくさんの方に大変お世話になりました、ありがとうございました。学術情報拠点（情報基盤センター・医学情報センター）のご発展を心よりお祈り申し上げます。

編集後記

情報基盤センターで長い間ご尽力いただいた吉田先生、矢田技術職員がご退職されることは寂しくもありますが、長年のご功勞に敬意を表し、感謝申し上げますとともに、益々のご健勝とご発展をお祈り申し上げます。

また、今回の広報誌には、情報システムの利活用事例として 2 名の方に原稿を寄稿していただきました。今後、皆様からのご寄稿もお待ちしております。

(Journal of IPCs 編集メンバー一同)